
**赤井川村
地域福祉に関する
アンケート調査結果報告書**

**平成 30 年9月
赤井川村**

目 次

I. 調査の概要	3
1. アンケート調査の概要	3
2. 本報告書の留意点	3
II. アンケート調査結果	4
1. 回答者について	4
2. 地域での付き合いや活動について	7
3. 暮らしの中で困ったことや情報について	21
4. 災害時のことについて	28
5. 地域福祉について	32
6. 自殺に関する意識について	36
7. うつ病について	42
8. 今後の自殺対策について	45

I. 調査の概要

1. アンケート調査の概要

第1期地域福祉計画策定にあたって、村民の地域福祉活動の状況や支援ニーズを把握し、村として進めていくべき施策の基礎調査とするため、アンケート調査を実施しました。

対象者	18歳以上の村民
調査時期	平成30年6月～7月
調査方法	郵送法（郵送による配布・回収）
配布数	925（無作為抽出）
有効回収数	306
有効回収率	33.1%

2. 本報告書の留意点

本報告書を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

- ・ 比率は百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- ・ 基数となるべき実数は、“n=〇〇〇”として掲載し、各比率は“n=〇〇〇”を100%として算出しています。
- ・ グラフに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- ・ 問の中には回答を限定する問があり、回答者の数が少ない問が含まれます。

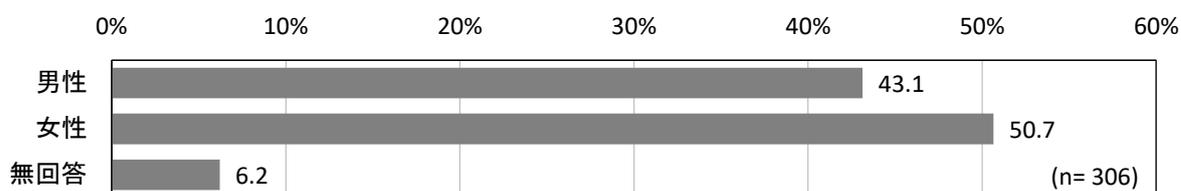
Ⅱ. アンケート調査結果

1. 回答者について

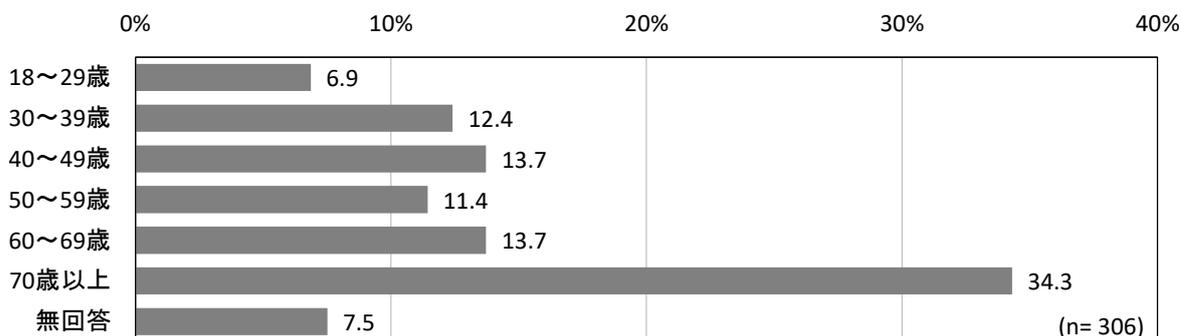
(1) 性別・年齢

回答者の性別は男性が43.1%、女性が50.7%で女性がやや多くなっています。
 回答者の年齢は、「70歳以上」が34.3%を占め、30～69歳はそれぞれ12%前後となっており、「18～29歳」が6.9%と少なくなっています。
 男女別の年齢構成をみると、女性は「70歳以上」が男性よりも多くなっています。

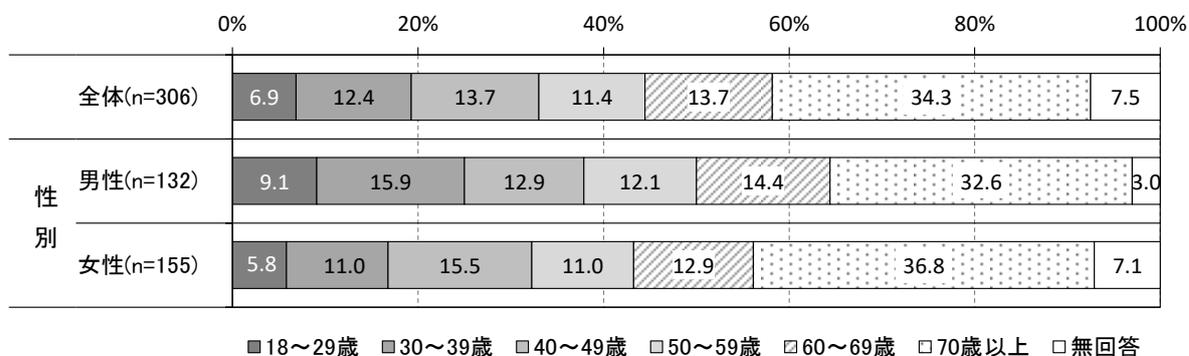
《回答者の性別》



《回答者の年齢》



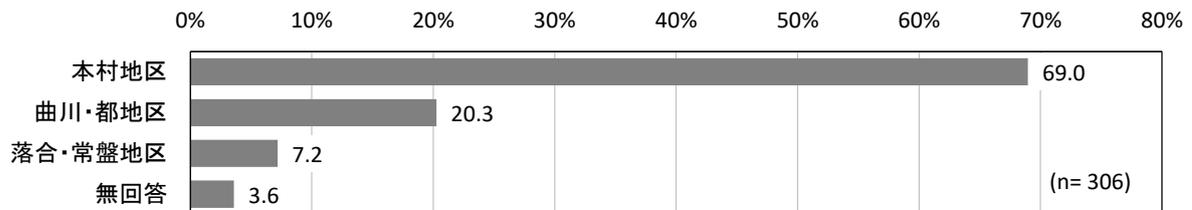
《男女別の年齢構成割合》



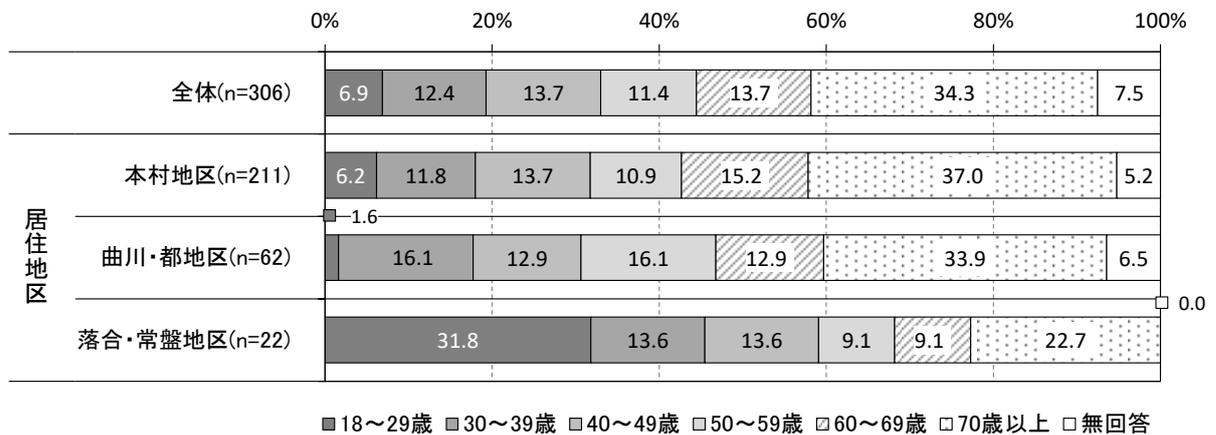
(3) 居住地区

回答者の居住地区は「本村地区」が69.0%で最も多く、次いで「曲川・都地区」(20.3%)、「落合・常盤地区」(7.2%)となっています。
 それぞれの地区の年齢構成をみると、「本村地区」と「曲川・都地区」には大きな差異はみられません、「落合・常盤地区」はリゾート地区であることから18~29歳が31.8%と他の地区よりも多くなっています。

《回答者の居住地区》

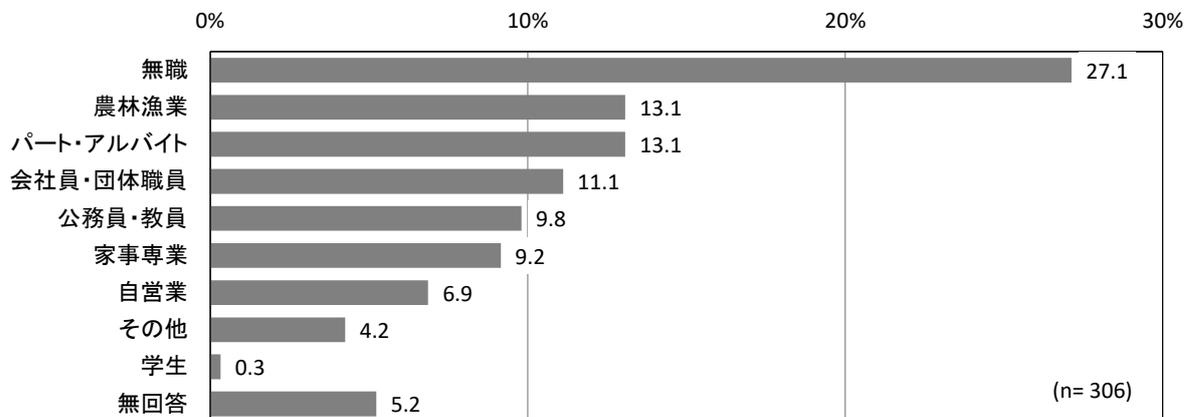


《居住地区別の年齢構成割合》



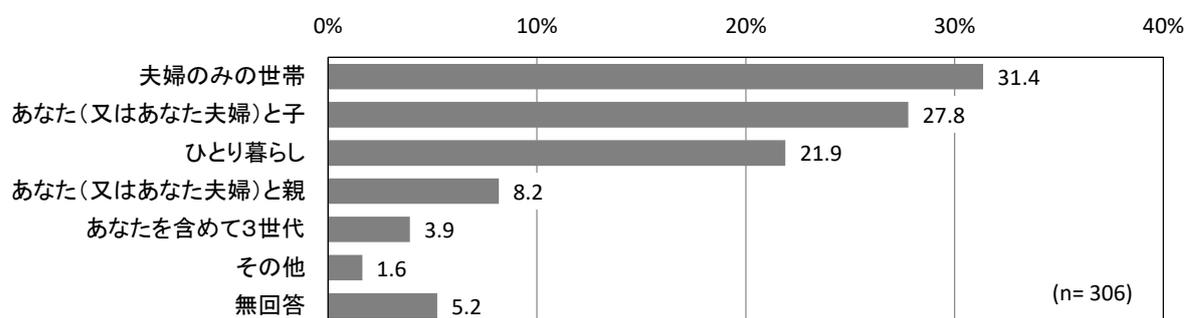
(4) 職業

回答者の職業は、「無職」が27.1%で最も多く、次いで「農林漁業」「パート・アルバイト」(ともに13.1%)、「会社員・団体職員」(11.1%)と続いています。



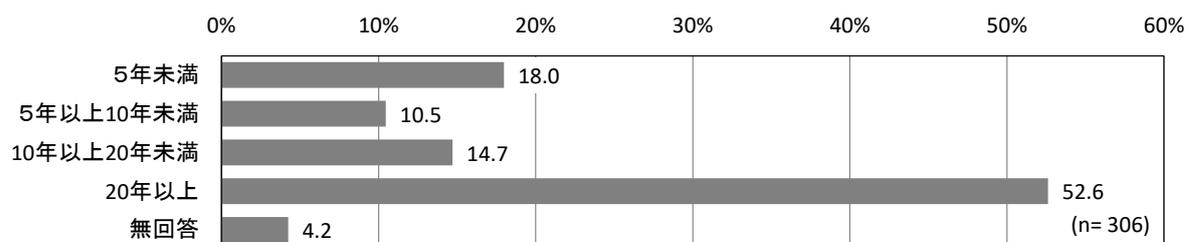
(5) 家族構成

回答者の家族構成は、「夫婦のみ世帯」が31.4%で最も多く、次いで「あなた（又はあなた夫婦）と子」（27.8%）、「ひとり暮らし」（21.9%）と続いています。



(6) 居住年数

回答者の居住年数は、「20年以上」が52.6%で最も多く、次いで「5年未満」（18.0%）、「10年以上20年未満」（14.7%）、「5年以上10年未満」（10.5%）の順となっています。



2. 地域での付き合いや活動について

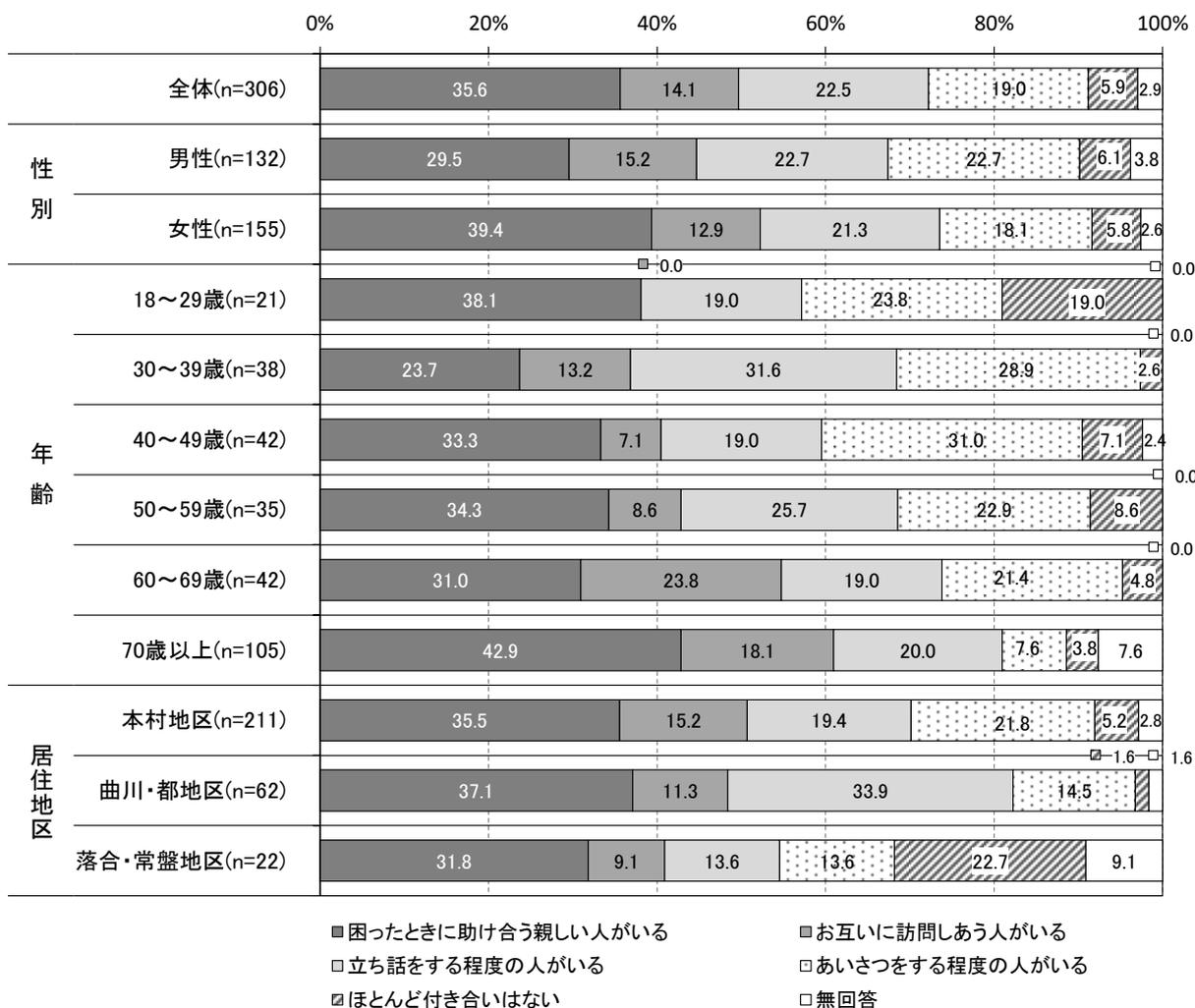
(1) 近所付き合いの程度

全体で見ると、「困ったときに助け合う親しい人がいる」が35.6%で最も多く、次いで「立ち話をする程度の人がある」(22.5%)、「あいさつをする程度の人がある」(19.0%)で続いています。人口規模が大きい自治体では「困ったときに助け合う親しい人がいる」の割合は20%未満であることが多く、本村の近所付き合いは濃い関係性が築かれていると考えられます。

男女別で見ると、女性の方が「困ったときに助け合う親しい人がいる」が男性よりも10ポイントほど多く、年齢別では18～29歳、70歳以上は「困ったときに助け合う親しい人がいる」が約40%と多くなっています。

30～39歳は「困ったときに助け合う親しい人がいる」が23.7%で、他の年齢に比べると最も低い割合となっており、近所付き合いの希薄さがやや見受けられます。

居住地区別で見ると、落合・常盤地区は「ほとんど付き合いはない」が22.7%で他の地区よりも多い状況となっています。



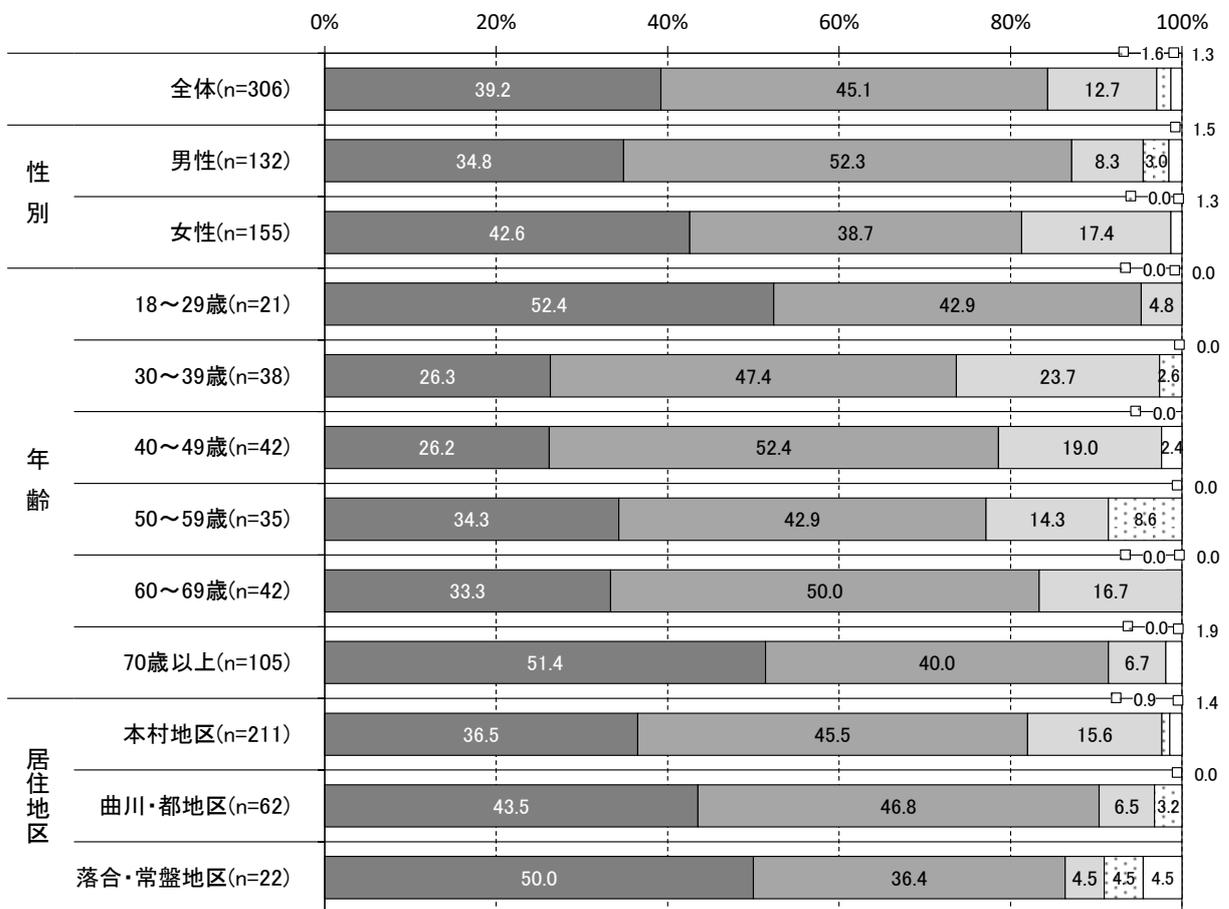
(2) 近所付き合いの考え方

全体では、「近所であいさつをしたり、協力することは当然だと思う」が45.1%で最も多く、次いで「助け合って暮らしていくことが大切だと思う」(39.2%)と続いています。一方で、「あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない」と考えている方も12.7%存在しています。

男女別で見ると、男性は「あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない」が10%未満ですが、女性は17.4%で男性の約2倍となっています。

年齢別で見ると、18～29歳、70歳以上は「助け合って暮らしていくことが大切だと思う」が50%以上を占めていますが、その他の年代は30%前後と少なくなっています。また、30～39歳は「あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない」が23.7%で他の年齢と比べて多くなっています。

居住地区別で見ると、本村地区は「あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない」が他の地区よりも多い状況です。



■ 助け合って暮らしていくことが大切だと思う

□ あいさつ程度はするが、あまり深く関わりたくない

□ 無回答

■ 近所であいさつをしたり、協力することは当然だと思う

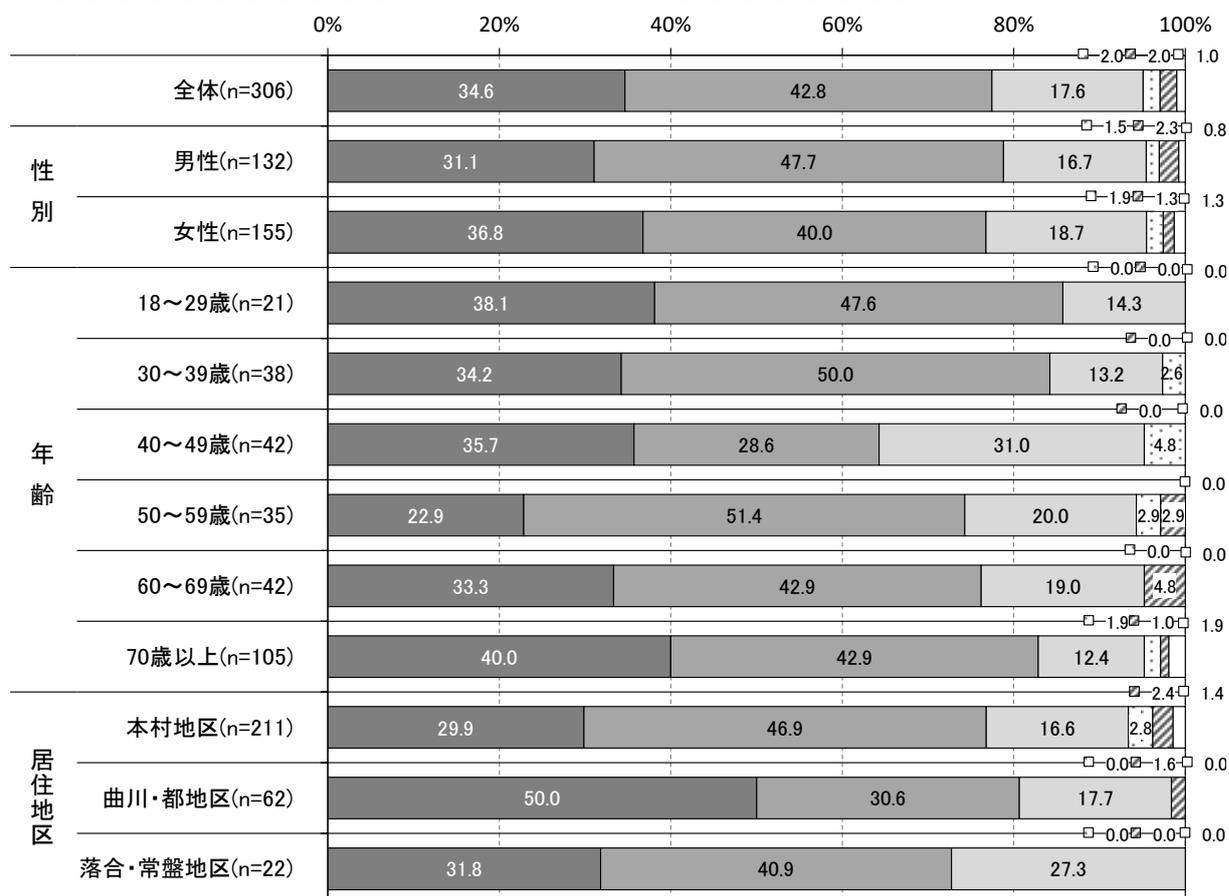
□ 近所付き合いはわずらわしいのであまりしたくない

(3) 近所付き合いの満足度

全体では、「満足している」「ある程度満足している」の合計は77.4%となっており、「少し不満がある」「大いに不満がある」の合計4.0%を大きく上回っており、満足度は高いと考えられます。

男女間に大きな差異はみられませんが、「満足している」「ある程度満足している」の合計を年齢別でみると、40～49歳は64.3%で他の年齢よりも低くなっています。

居住地区別でみると、どの地区も「満足している」「ある程度満足している」の合計は70%以上を占めています。

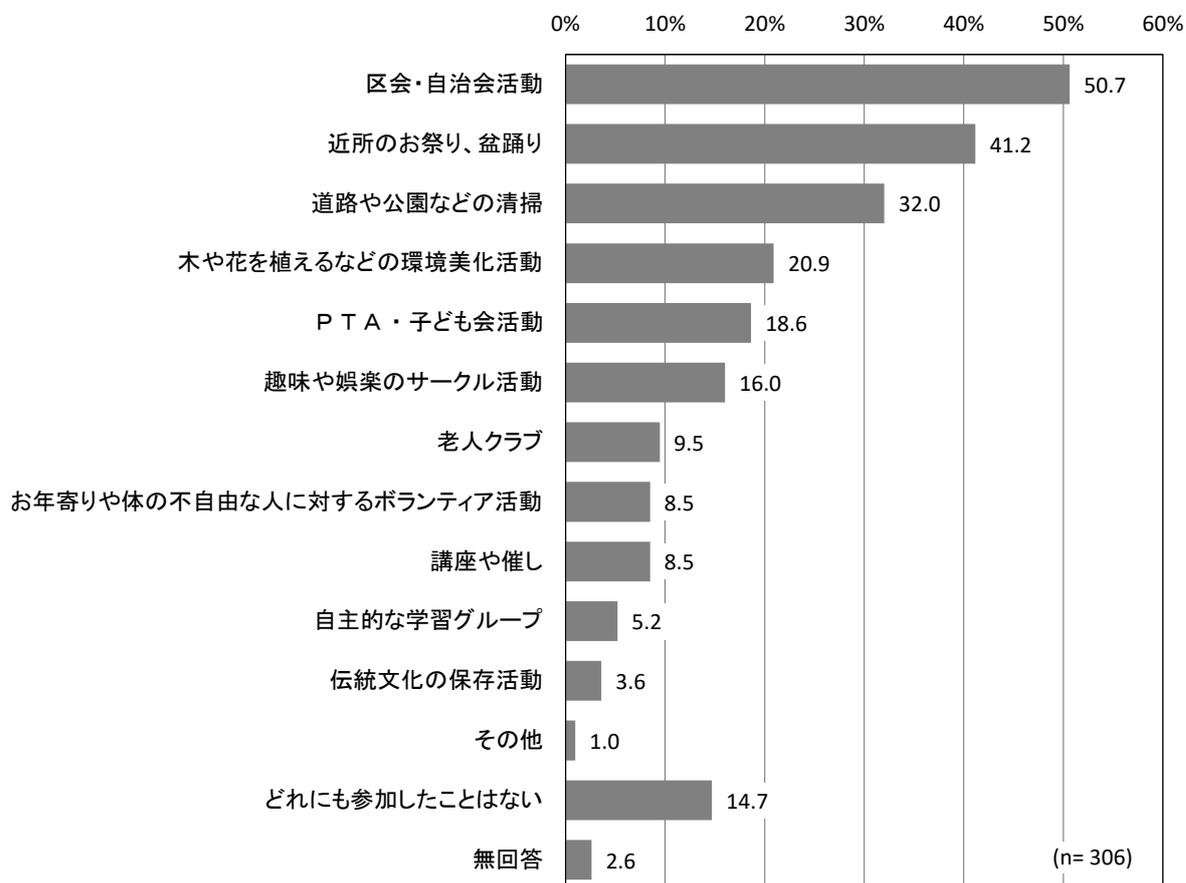


■満足している ■ある程度満足している □どちらともいえない □少し不満がある ■大いに不満がある □無回答

(4) 最近1年間の地域の行事や催しへの参加状況【複数回答】

《 全 体 》

地域の行事や催しへの参加状況は「区会・自治会活動」が50.7%で最も多く、次いで「近所のお祭り、盆踊り」(41.2%)、「道路や公園などの清掃」(32.0%)と続いています。一方、「どれにも参加したことはない」は14.7%にとどまっています。

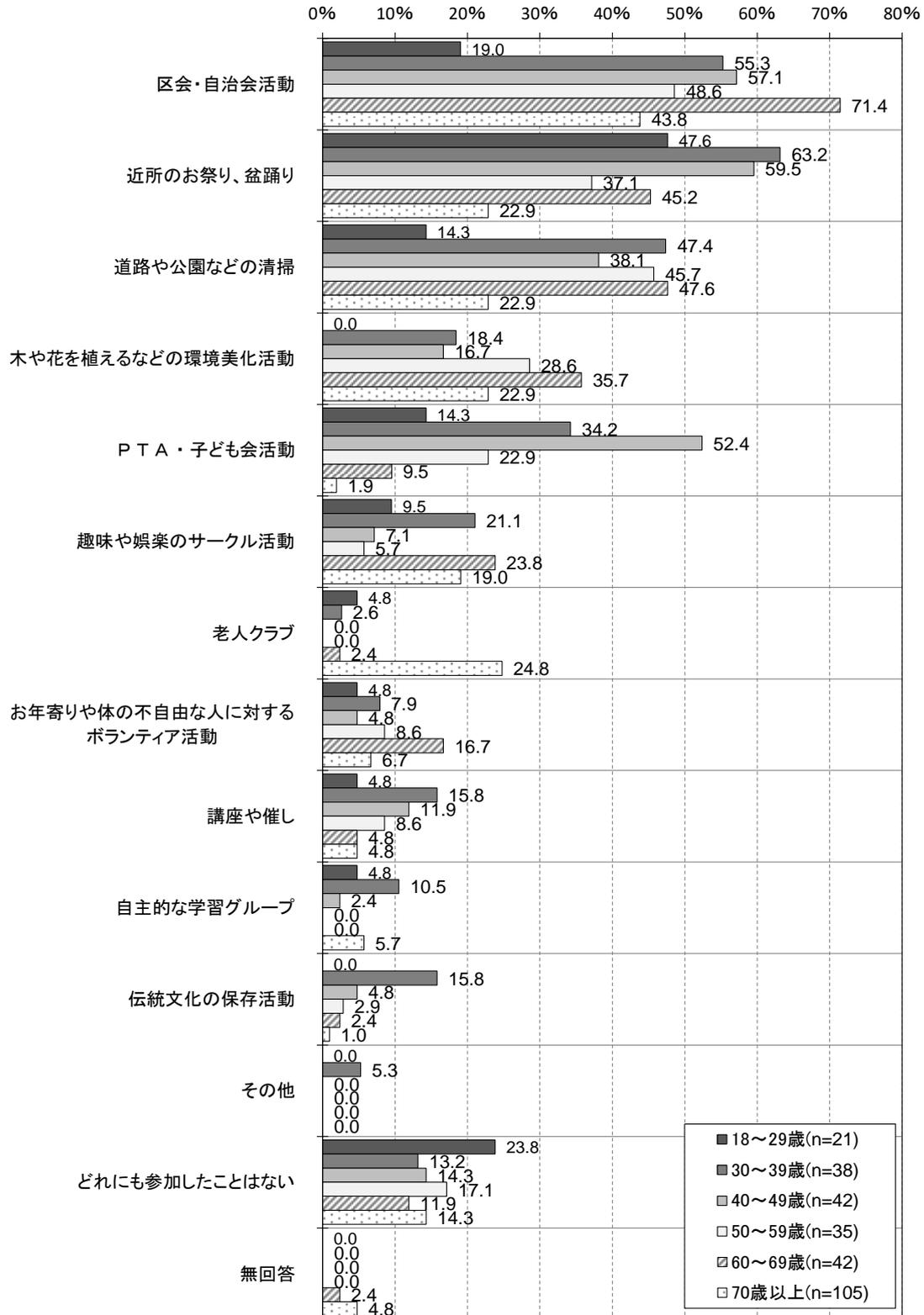


<その他>

・中学校のボランティア活動

《 年 齢 別 》

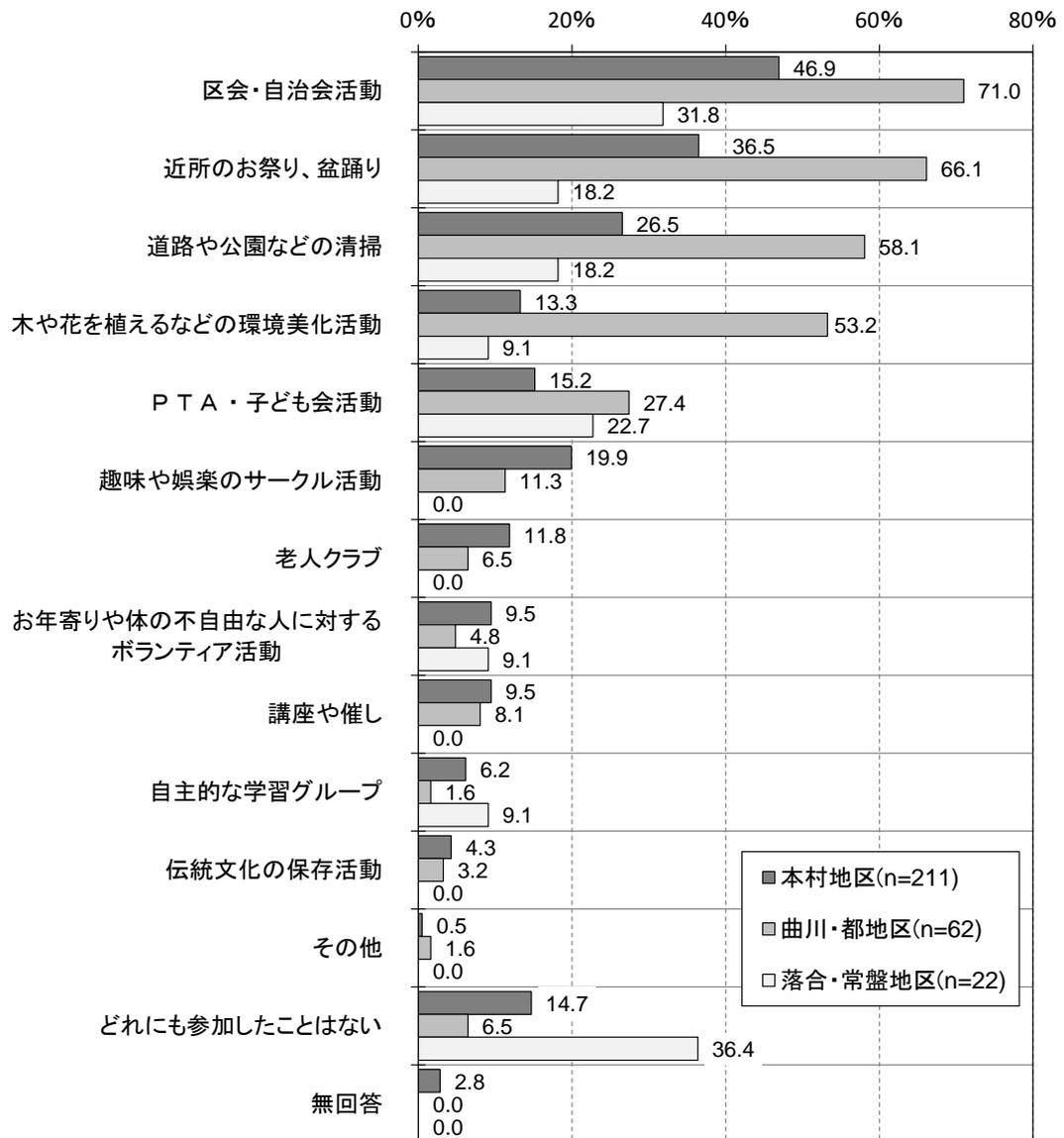
年齢別でみると、18～49歳は「近所のお祭り」、50歳以上は「区会・自治会活動」がそれぞれ最も多くなっています。一方、「どれにも参加したことはない」方は、18～29歳が23.8%で最も多い状況です。



《 居住地区別 》

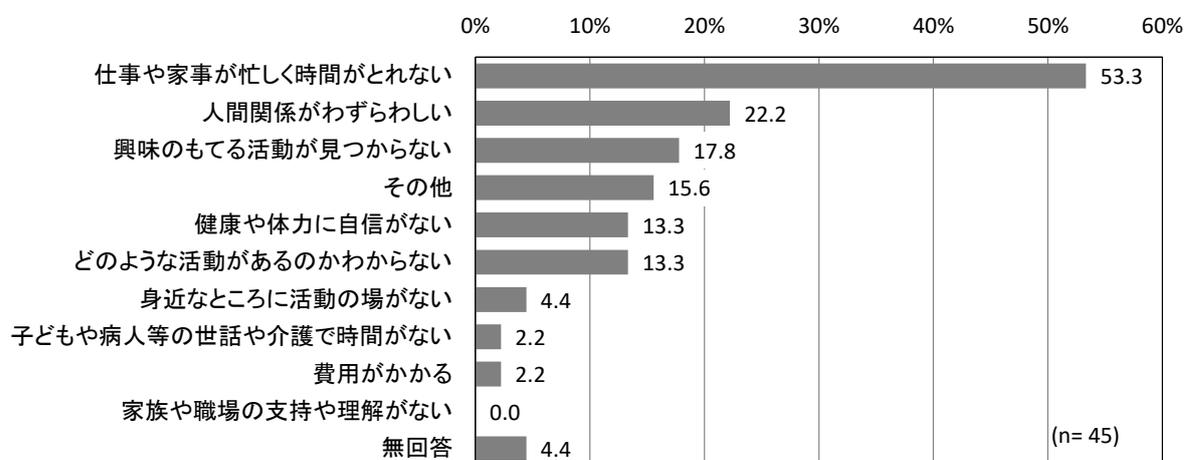
居住地区別でも、「区会・自治会活動」「近所のお祭り、盆踊り」「道路や公園などの清掃」がおおむね上位回答となっており、特に曲川・都地区は参加率が50%以上と高くなっています。

一方、落合・常盤地区は「どれも参加したことはない」が36.4%で最も多く、行事への参加率が低い状況にあります。



(5) 地域の行事や催しに参加しなかった理由【複数回答】

地域の行事や催しへ参加しなかった理由は、「仕事や家事が忙しく時間がとれない」が53.3%で最も多く、次いで「人間関係がわずらわしい」(22.2%)、「興味のもてる活動が見つからない」(17.8%)と続いています。



<その他>

- ・ 転入したばかりのため
- ・ 知人がいないため参加しにくい
- ・ 個人情報をばらまきたくない、知り合いたくない
- ・ 外(社会)に出るのがおっくうである
- ・ 老人ホームに入所中のため

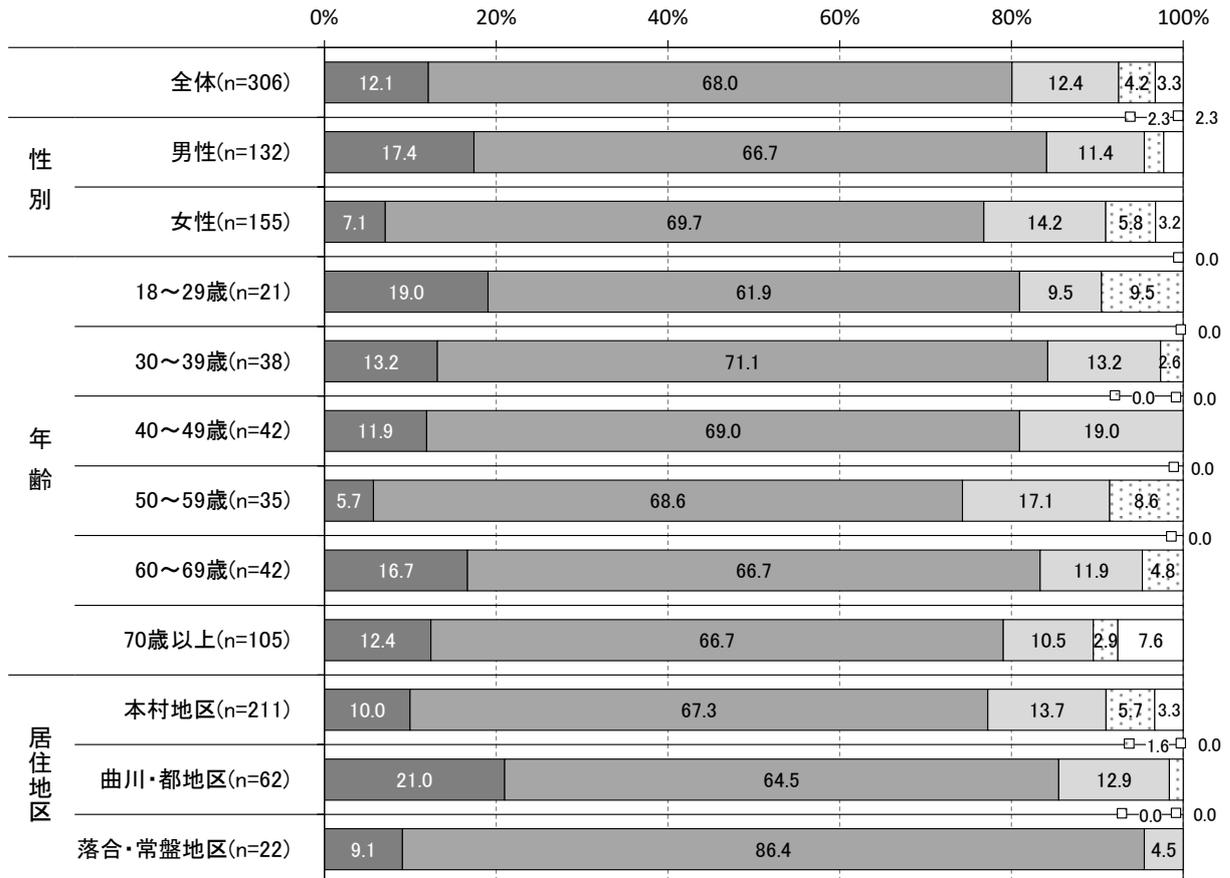
(6) 地域活動への参加意向

全体では、地域活動へ「是非参加したい」(12.1%)、「機会があれば参加したい」(68.0%)の合計80.1%に参加意向がある状況です。

男女別では、男性は「是非参加したい」の割合が女性よりも多くなっています。

年齢別でみると、60歳未満は年齢が高くなるにつれて「是非参加したい」が少なくなっていますが、60～69歳はその割合が多くなっています。

居住地区別でみると、曲川・都地区は「是非参加したい」が他の」地区よりも多くなっています。また、落合・常盤地区は地域活動への参加割合が低い状況にありますが、「是非参加したい」「機会があれば参加したい」の合計は90%を超えており、参加意向は高いと考えられます。

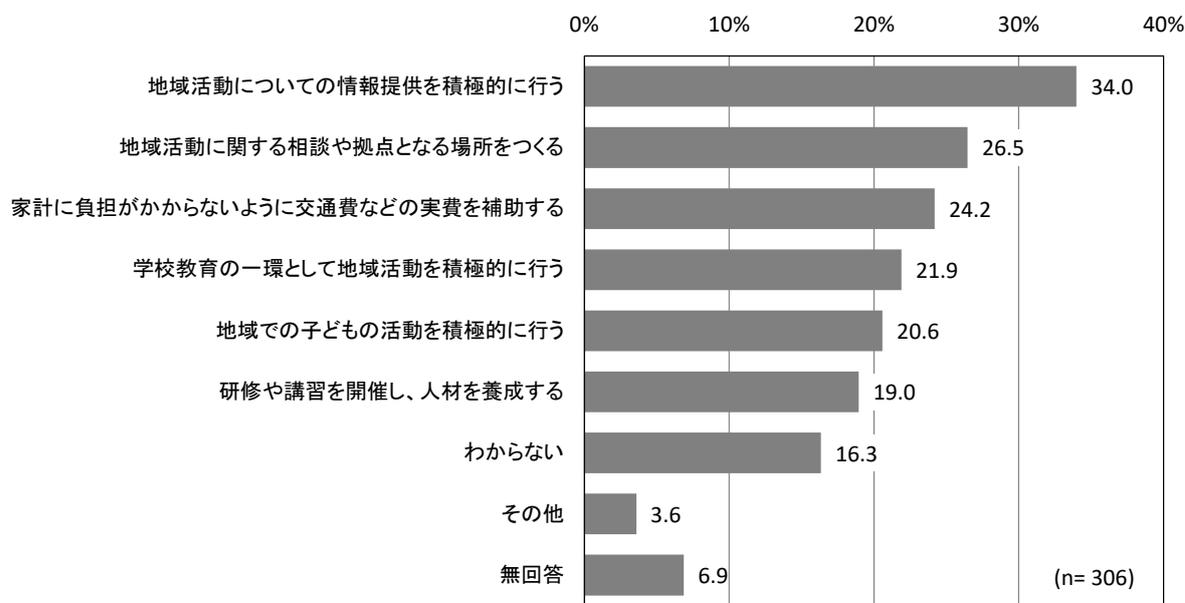


■是非参加したい □機会があれば参加したい □あまり参加したくない □参加したくない □無回答

(7) 地域活動を活発にしていくために必要なこと【複数回答】

《 全 体 》

地域活動を活発にしていくために必要なことは、「地域活動についての情報提供を積極的に行う」が34.0%で最も多く、次いで「地域活動に関する相談や拠点となる場所をつくる」(26.5%)、「家計に負担がかからないように交通費などの実費を補助する」(24.2%)と続いています。



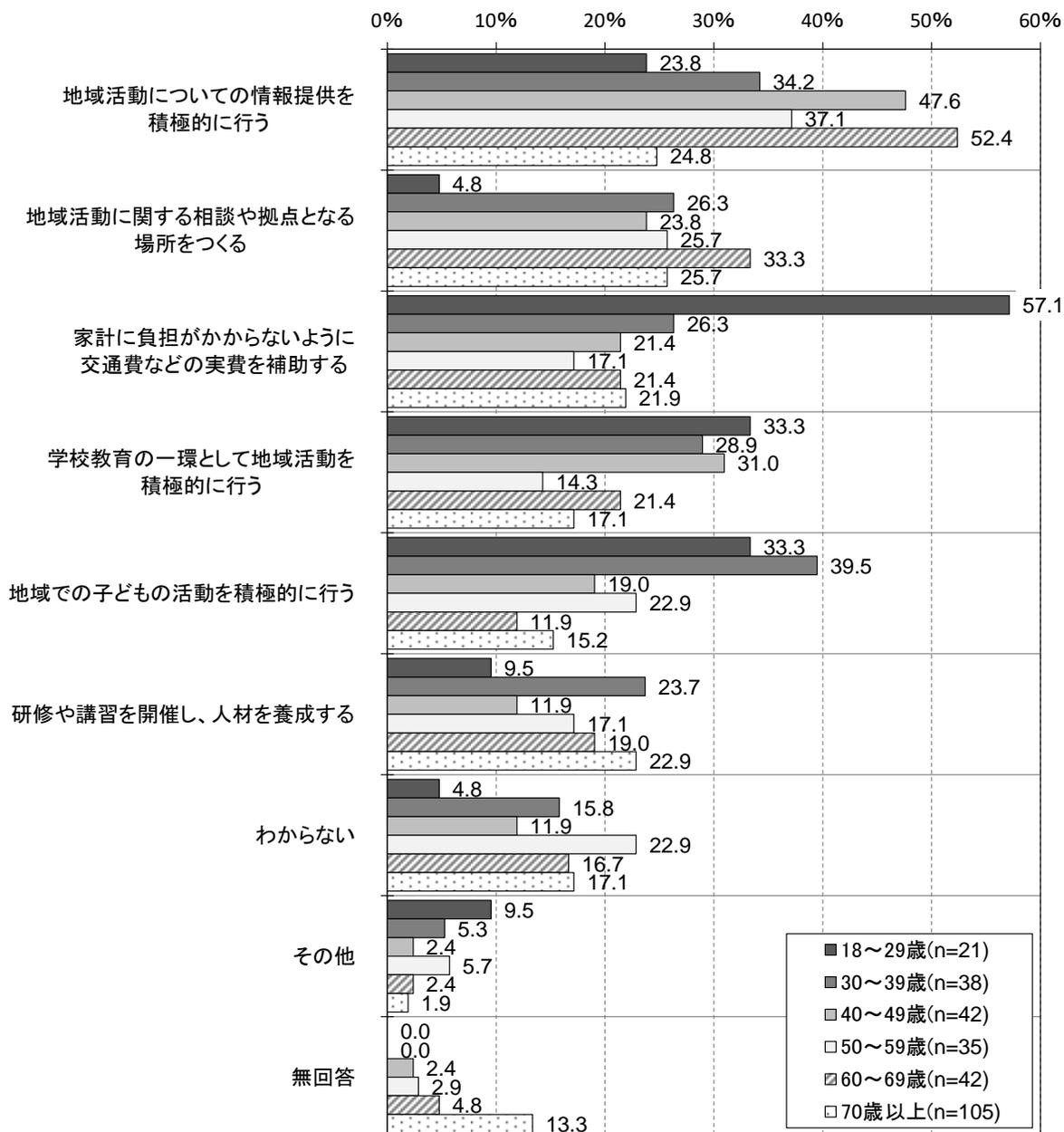
<その他>

- ・ 1年に数回、具体的にどんな活動がある場良いと思っているかアンケートをとる
- ・ トラブルを起こすような人材は参加させない
- ・ 自分には何ができるか考えてみてから行動したい
- ・ 他の市町村から見て、魅力があり、人の集まる地域である必要がある
- ・ 主婦向けの物を考えてみる
- ・ 年代に関係なく広く人材を集め、情報交換や共有することが大切だと思います。
- ・ 気持ちのゆとりと時間

《 年 齢 別 》

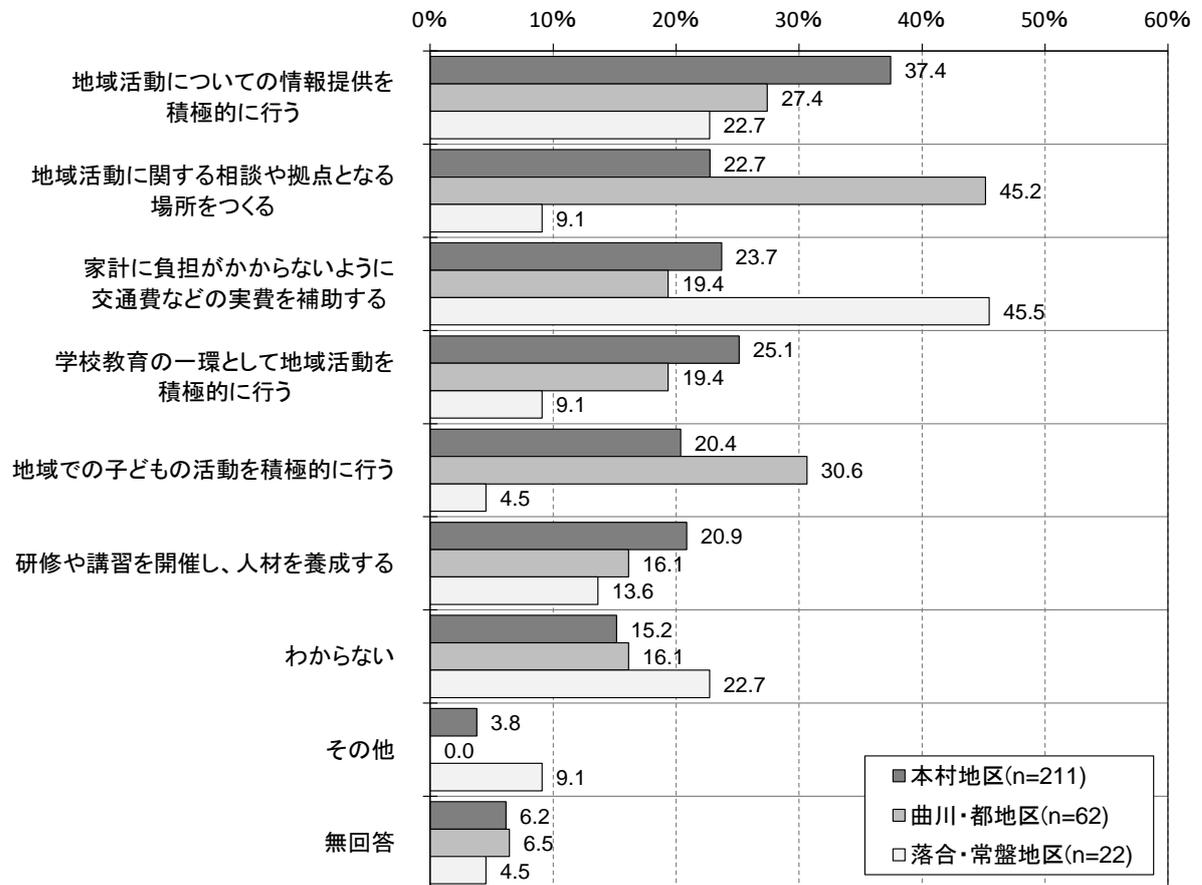
年齢別でみると、18～29歳は「家計に負担がかからないように交通費などの実費を補助する」が57.1%で、他の年代に比べて非常に多くなっています。

40～69歳は「地域活動についての情報提供を積極的に行う」が最も多く、中でも60～69歳はその割合が50%以上を占めています。



《 居住地区別 》

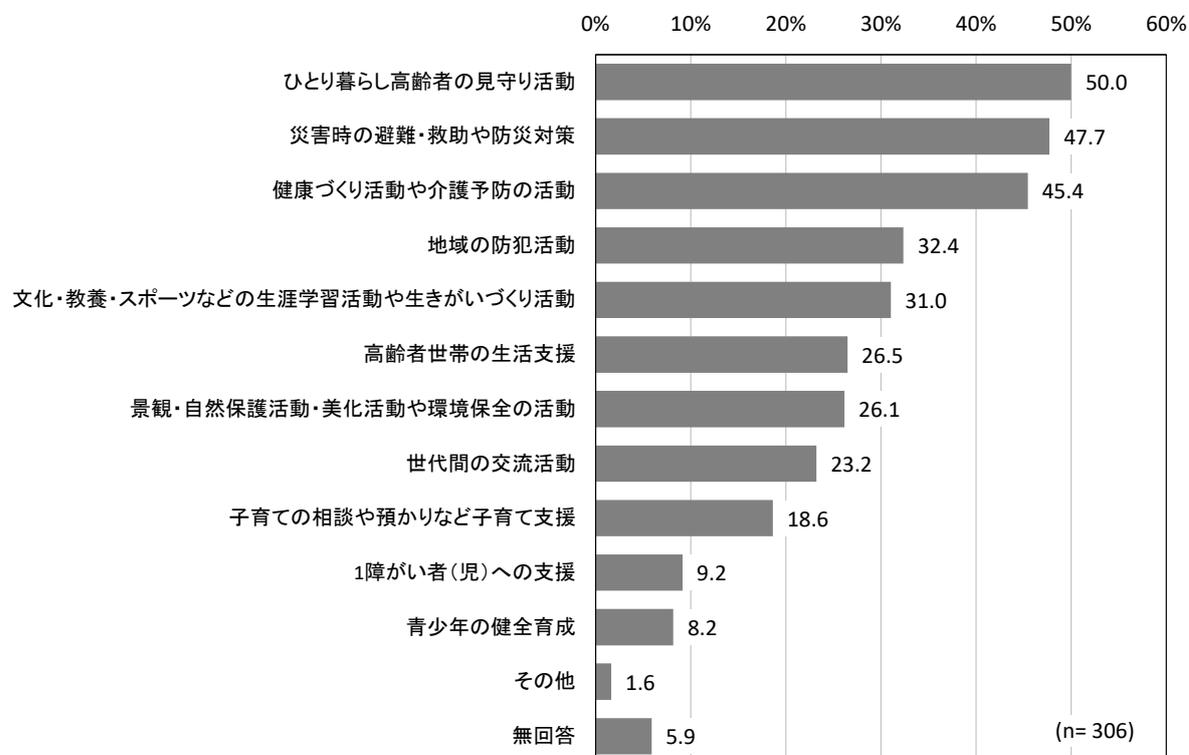
居住地区別にみると、本村地区は「地域活動についての情報提供を積極的に行う」、曲川・都地区は「地域活動に関する相談や拠点となる場所をつくる」、落合・常盤地区は「家計に負担がかからないように交通費などの実費を補助する」がそれぞれ最も多くなっています。



(8) 地域で協力して行った方がいいと思うこと【複数回答】

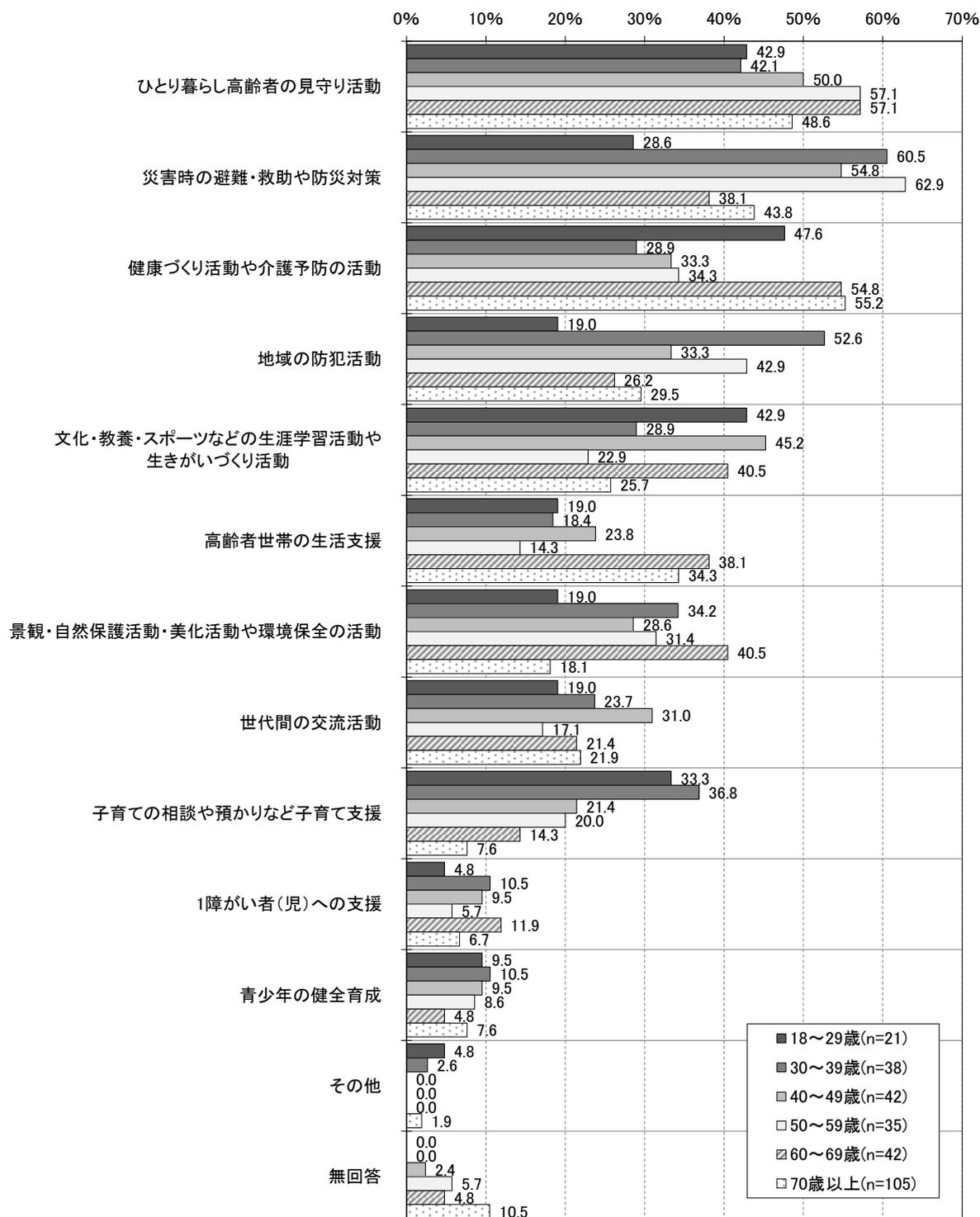
《 全 体 》

全体でみると、「ひとり暮らし高齢者の見守り活動」が50.0%で最も多く、次いで「災害時の避難・救助や防災対策」(47.7%)、「健康づくり活動や介護予防の活動」(45.4%)と続いています。



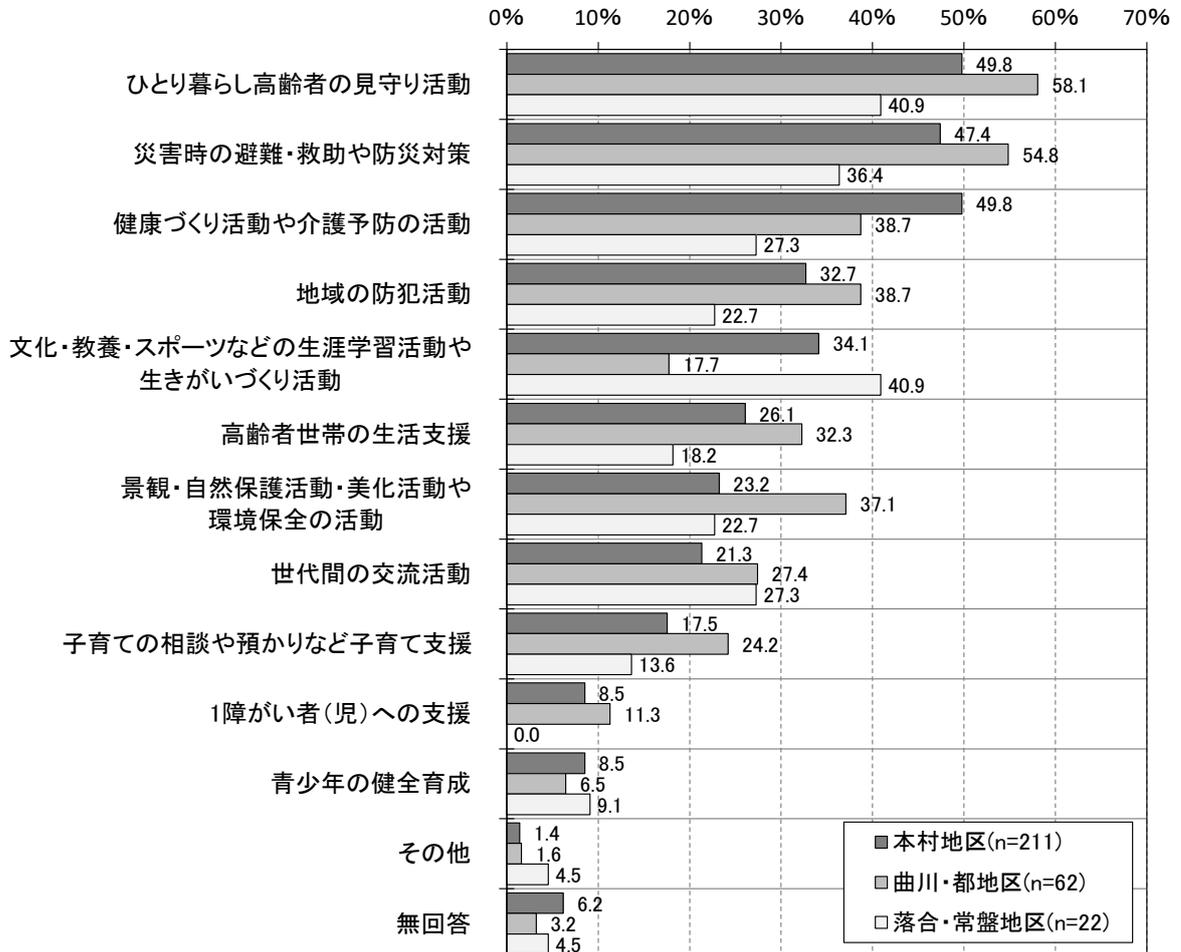
《 年 齢 別 》

年齢別でみると、18～29歳及び70歳以上は「健康づくり活動や介護予防の活動」、30～59歳は「災害時の避難・救助や防災対策」、60～69歳は「ひとり暮らし高齢者の見守り活動」がそれぞれ最も多くなっています。



《 居住地区別 》

居住地区別でも全体と傾向は似ていますが、本村地区は「健康づくり活動や介護予防の活動」、曲川・都地区は「景観・自然保護活動・美化活動や環境保全の活動」、落合・常盤地区は「文化・教養・スポーツなどの生涯学習活動や生きがづくり活動」の割合も多くなっています。

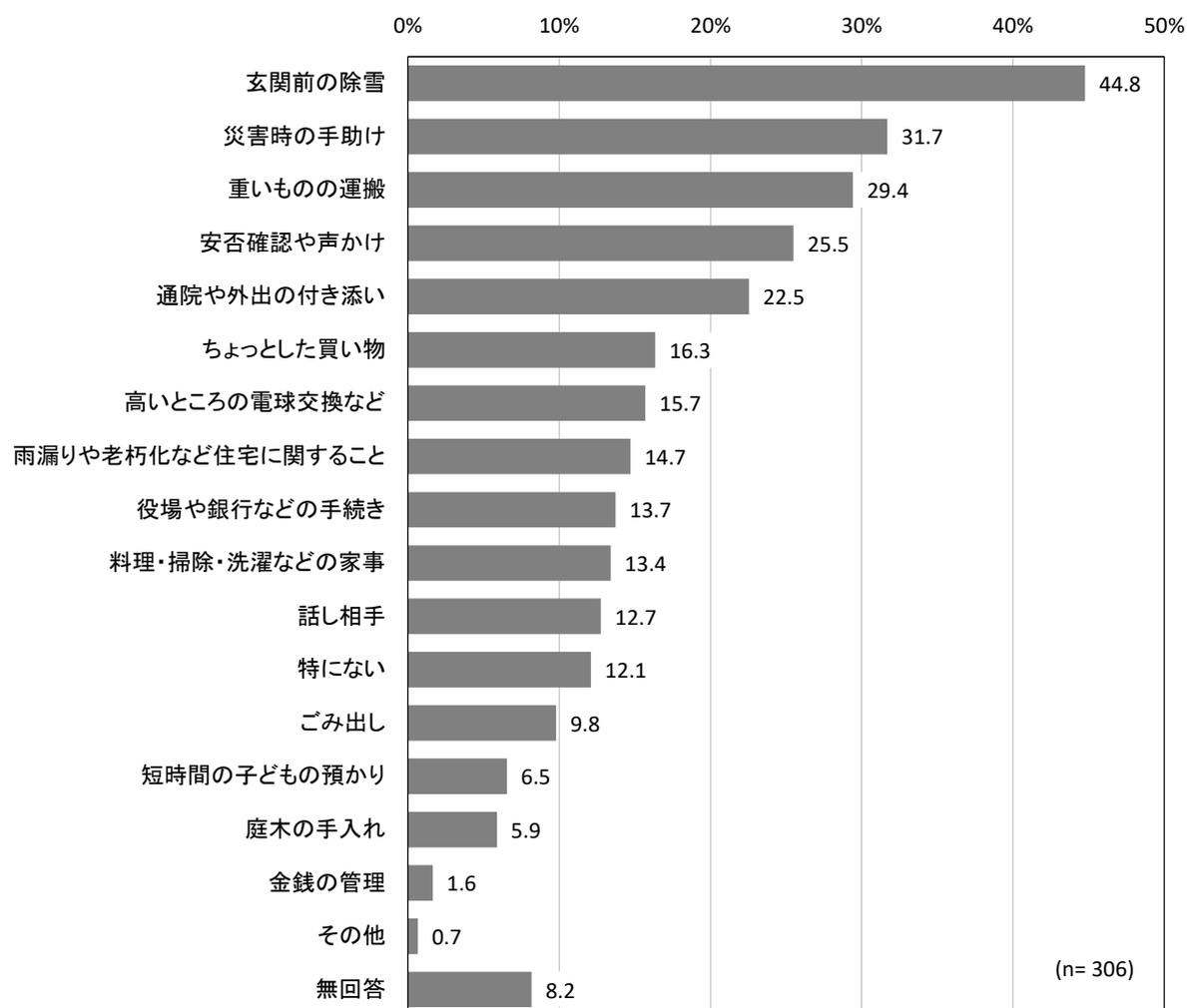


3. 暮らしの中で困ったことや情報について

(1) 日常生活が不自由になったときにしてほしいこと【複数回答】

《 全 体 》

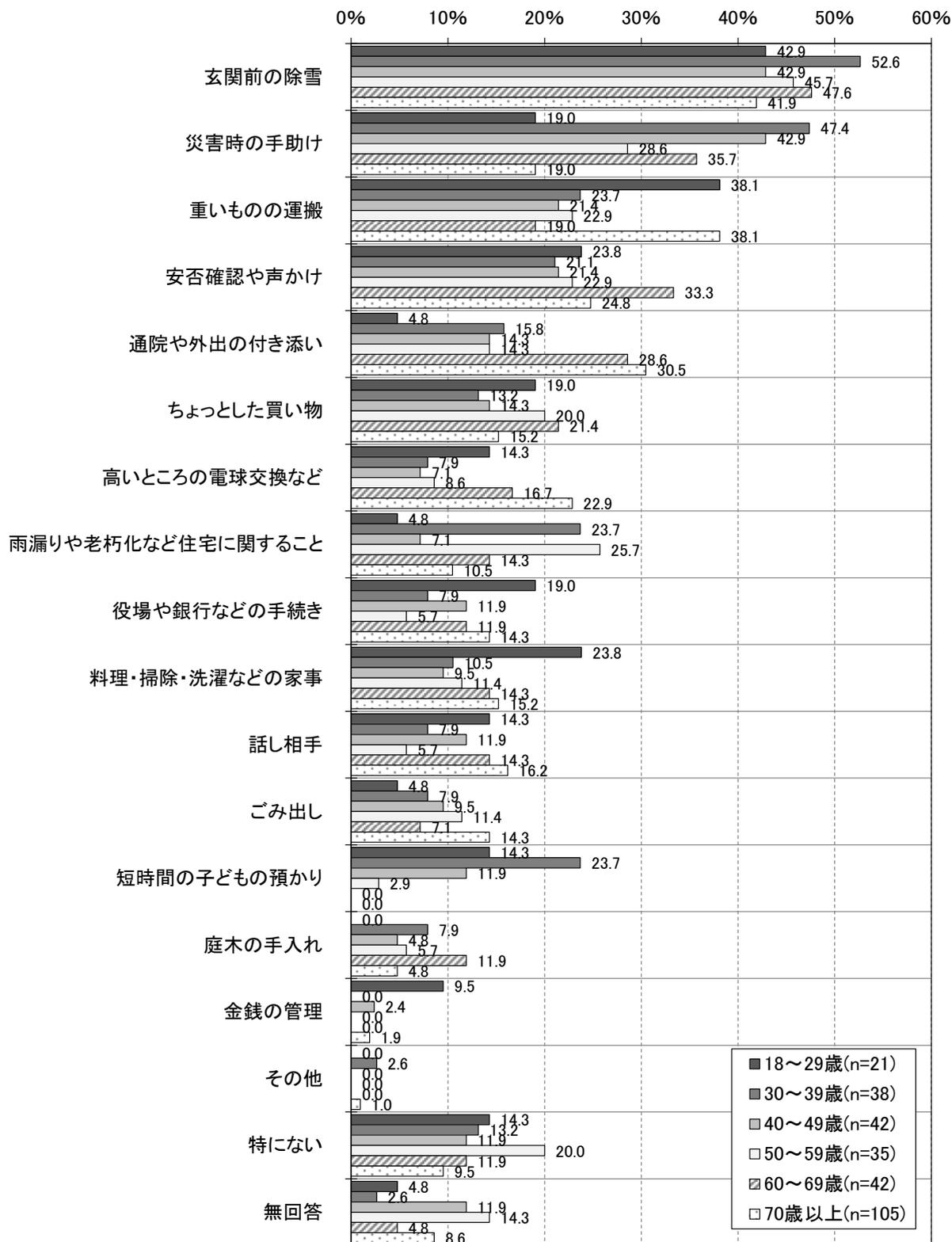
全体でみると、「玄関前の除雪」が44.8%で最も多くなっています。次いで「災害時の手助け」(31.7%)、「重いものの運搬」(29.4%)、「安否確認や声かけ」(25.5%)と続いています。



《 年 齢 別 》

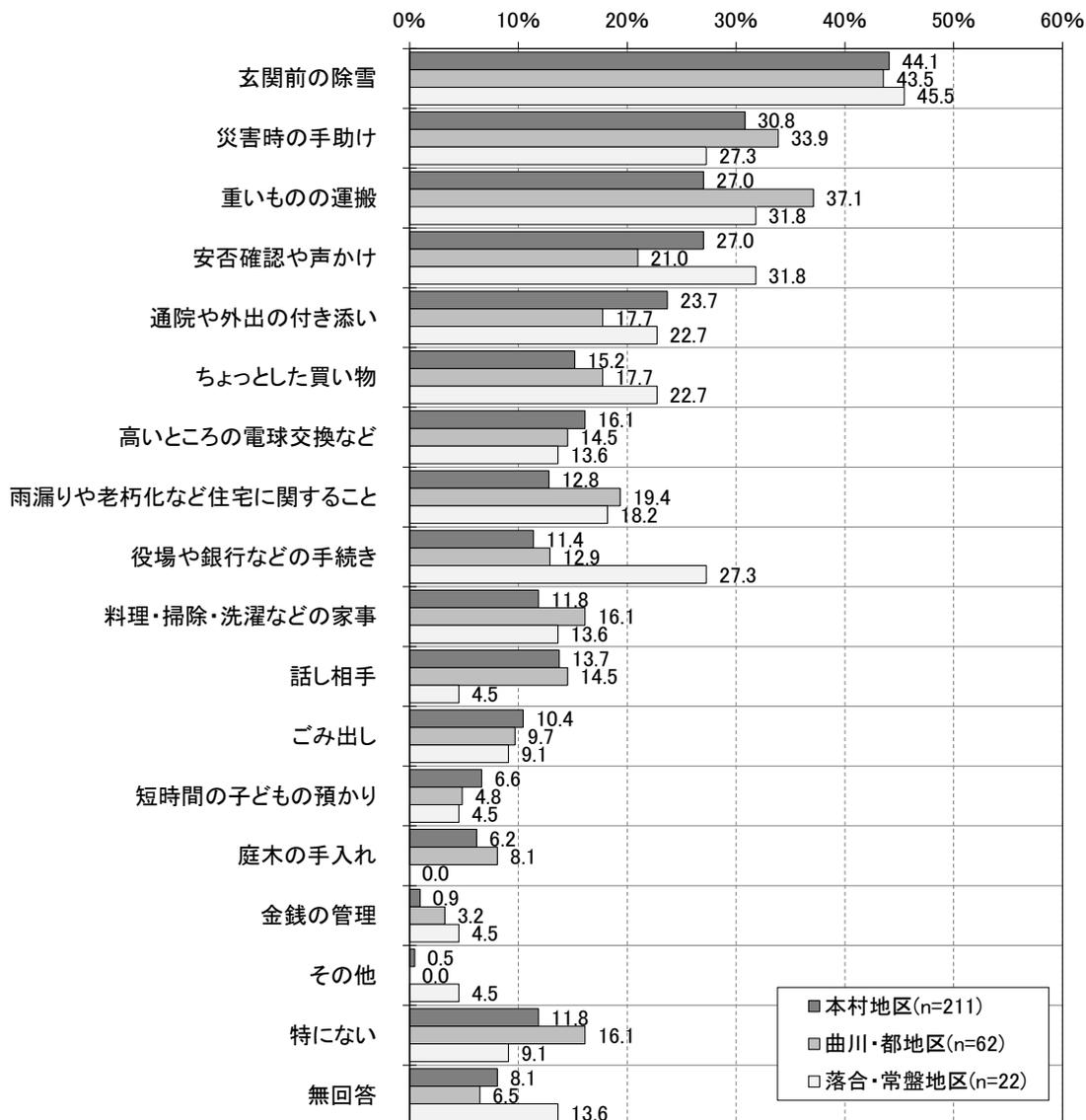
年齢別でみると、どの年齢においても「玄関前の除雪」が最も多く、特に30～39歳は52.6%と半数以上を占めています。

また、60～69歳は「安否確認や声かけ」70歳以上は「重いものの運搬」の割合も多くなっています。



《 居住地区別 》

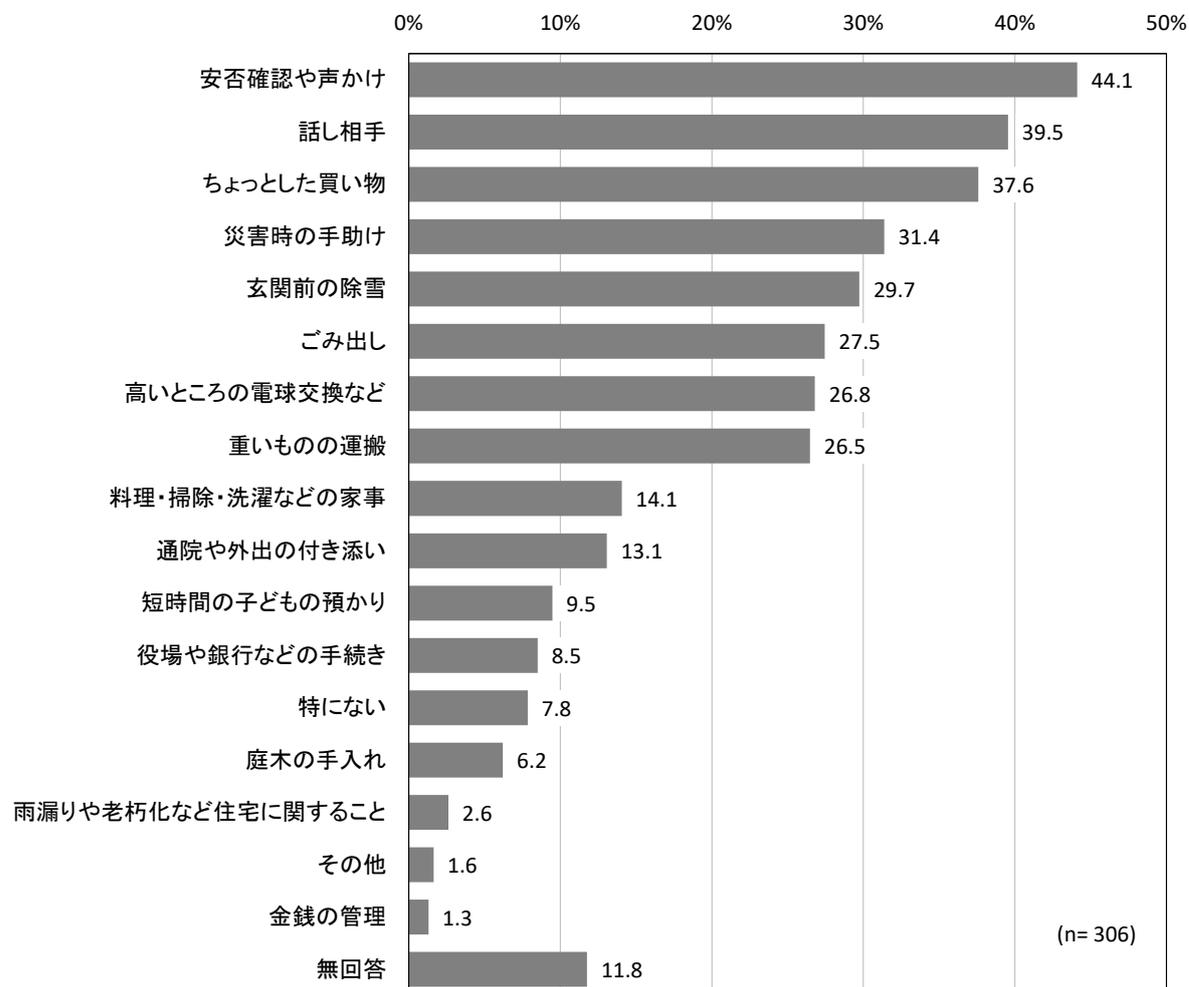
居住地区別でも全体とほぼ同じ傾向になっていますが、落合・常盤地区は、「役場や銀行などの手続き」が27.3%で他の地区と比べて多くなっています。



(2) 近所や地域の人のために自分ができること【複数回答】

《 全 体 》

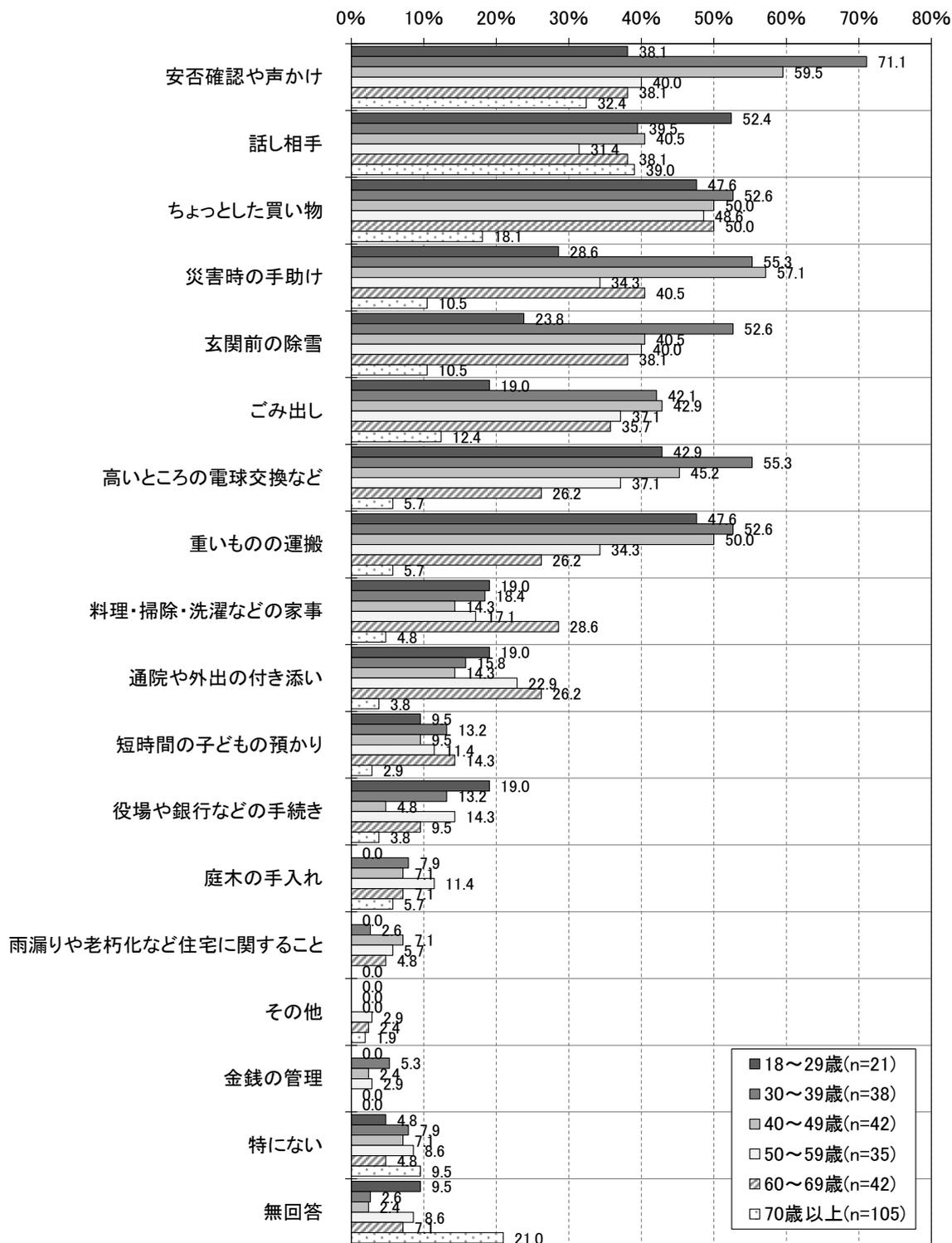
全体でみると、「安否確認や声かけ」が44.1%で最も多く、次いで「話し相手」(39.5%)、「ちょっとした買い物」(37.6%)と続いています。



《 年 齢 別 》

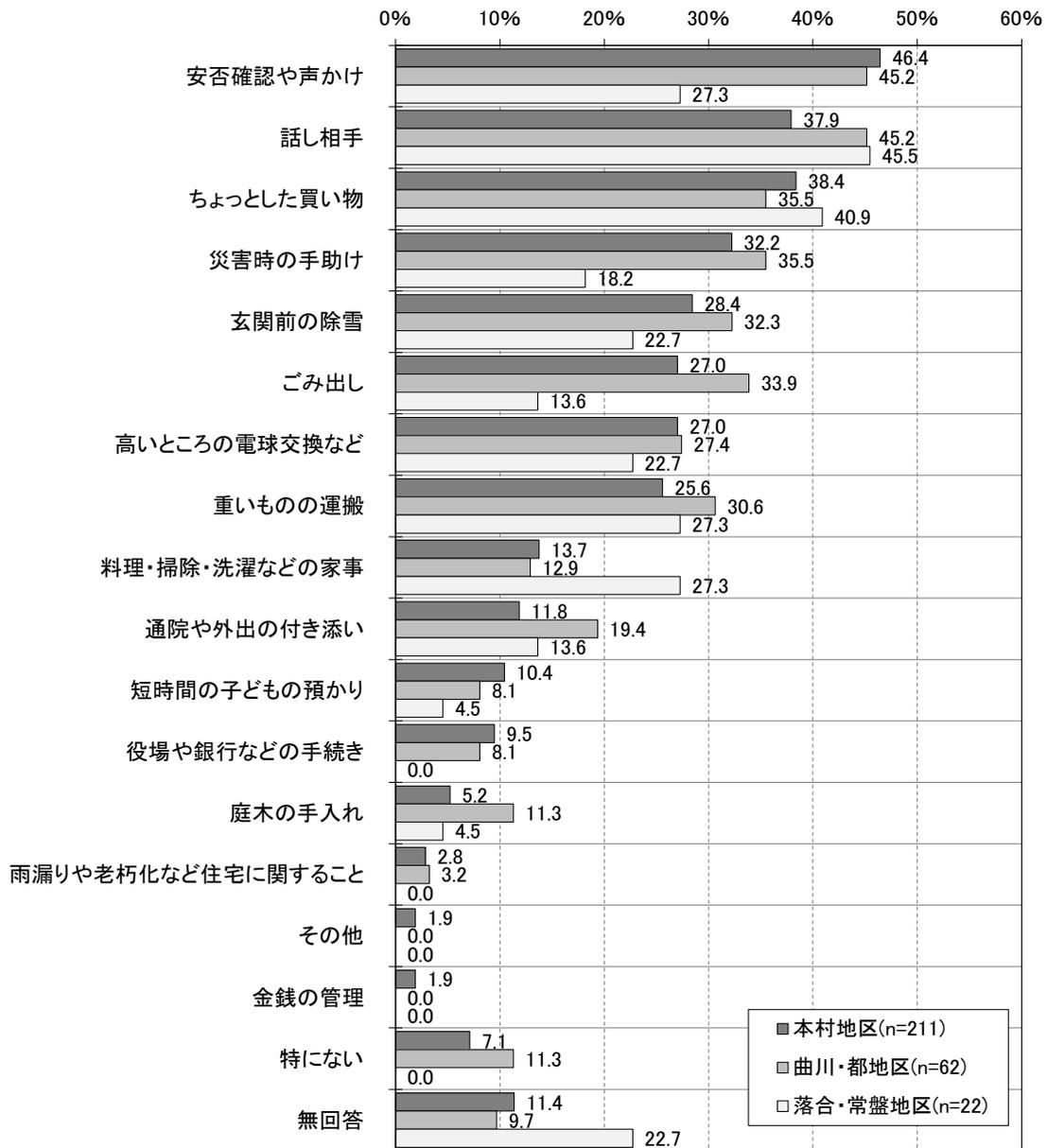
年齢別でも、「安否確認や声掛け」「話し相手」「ちょっとした買い物」が上位回答となっており、特に30～39歳は「安否確認や声掛け」が71.1%と非常に多くなっています。

また、30～39歳は「災害の手助け」「玄関前の除雪」「高いところの電球交換など」「重いものの運搬」の割合も高くなっています。



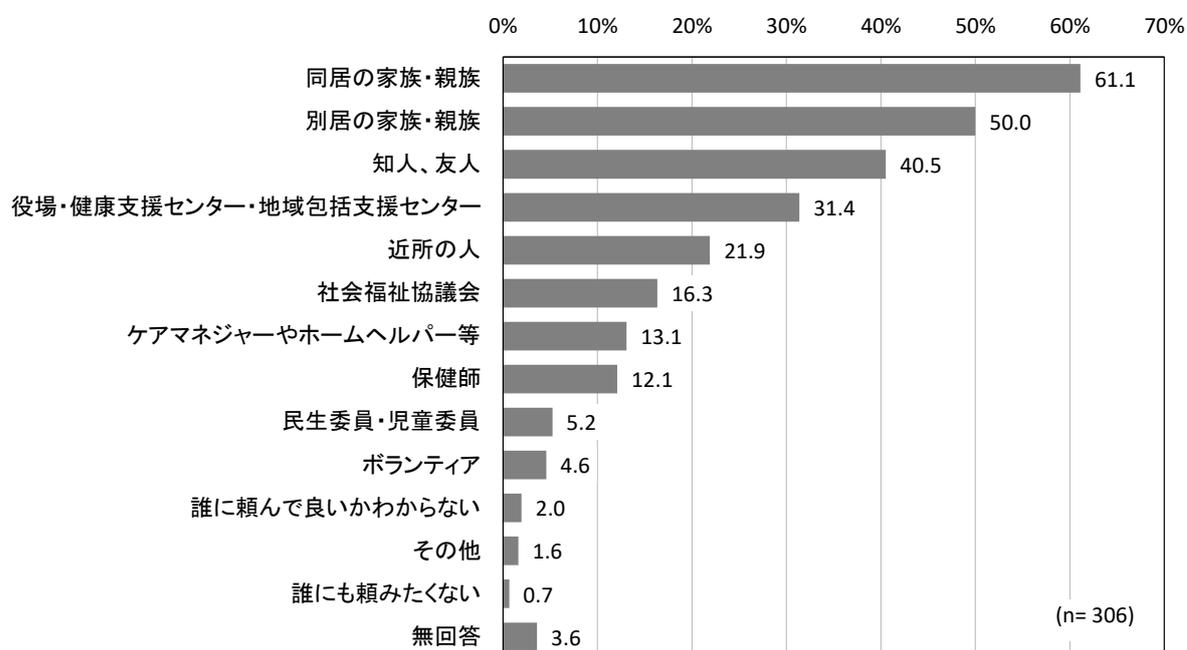
《 居住地区別 》

居住地区別でも、「安否確認や声掛け」「話し相手」「ちょっとした買い物」がおおむね上位回答となっていますが、落合・常盤地区は「安否確認や声かけ」の割合が少なく、「料理・掃除・洗濯などの家事」が多くなっています。



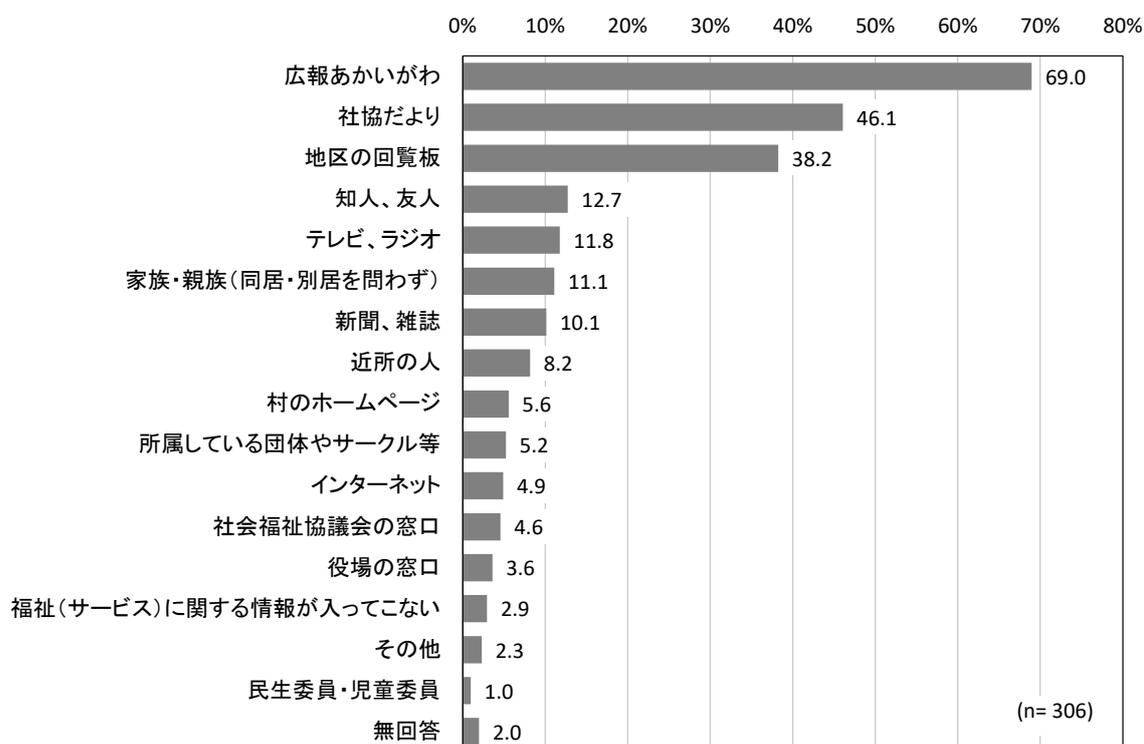
(3) 相談や助けが必要なときに手助けを頼みたい人【複数回答】

相談や助けが必要なときに手助けを頼みたい人は、「同居の家族・親族」が61.1%で最も多く、次いで「別居の家族・親族」(50.0%)、「知人、友人」(40.5%)で続いており、家族・親族に手助けを頼みたいと考えている方が多い状況です。



(4) 福祉サービスに関する情報の取得先【複数回答】

福祉サービスに関する情報の取得先は、「広報あかいがわ」が69.0%を占めており、次いで「社協だより」(46.1%)、「地区の回覧板」(38.2%)が続いています。



4. 災害時のことについて

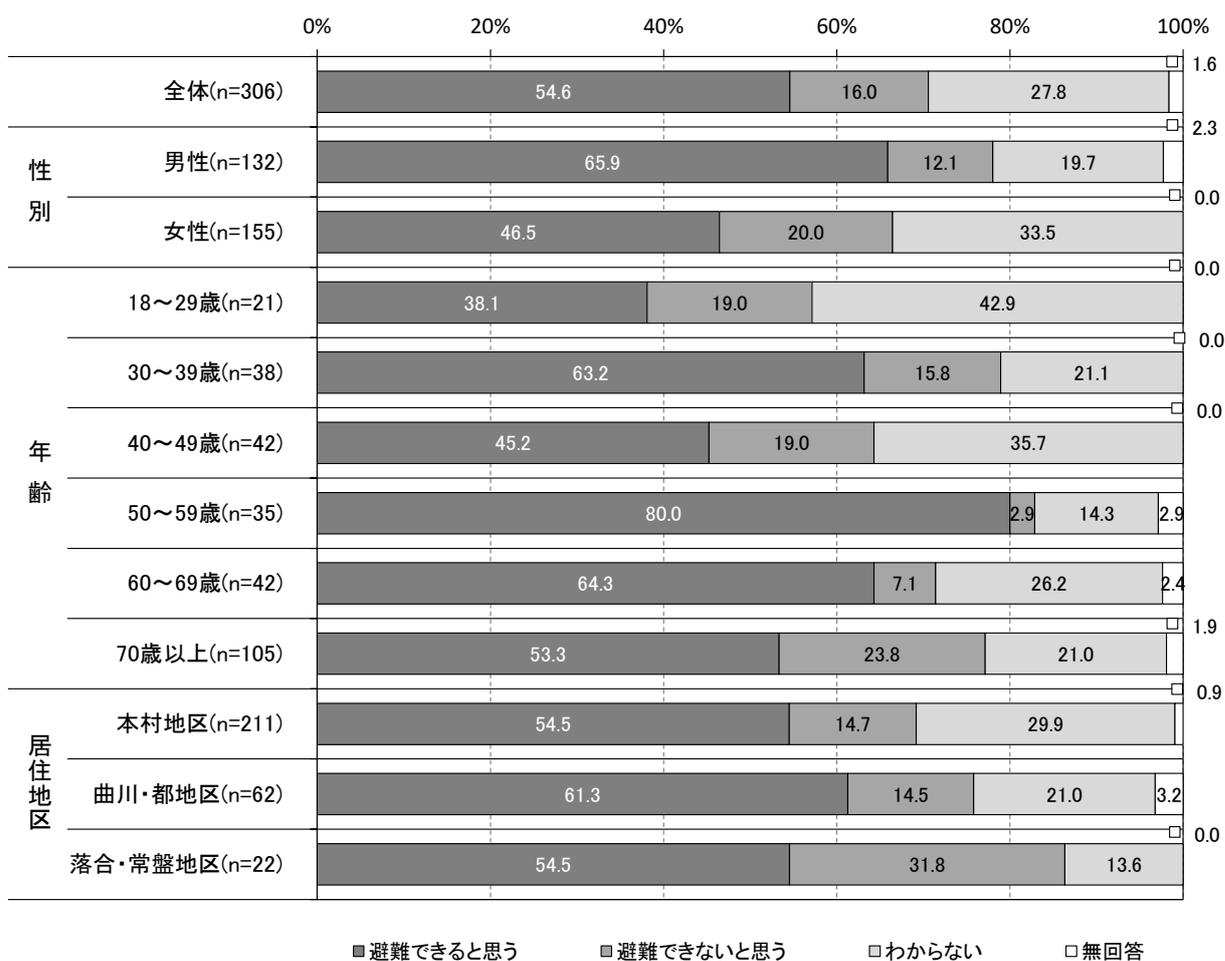
(1) 災害などの緊急時に避難できると思うか

全体では、「避難できると思う」が54.6%で最も多く、次いで「わからない」(27.8%)、「避難できないと思う」(16.0%)の順となっています。

男女別でみると、男性は「避難できると思う」と回答している方が65.9%に対し、女性は46.5%と少なくなっています。

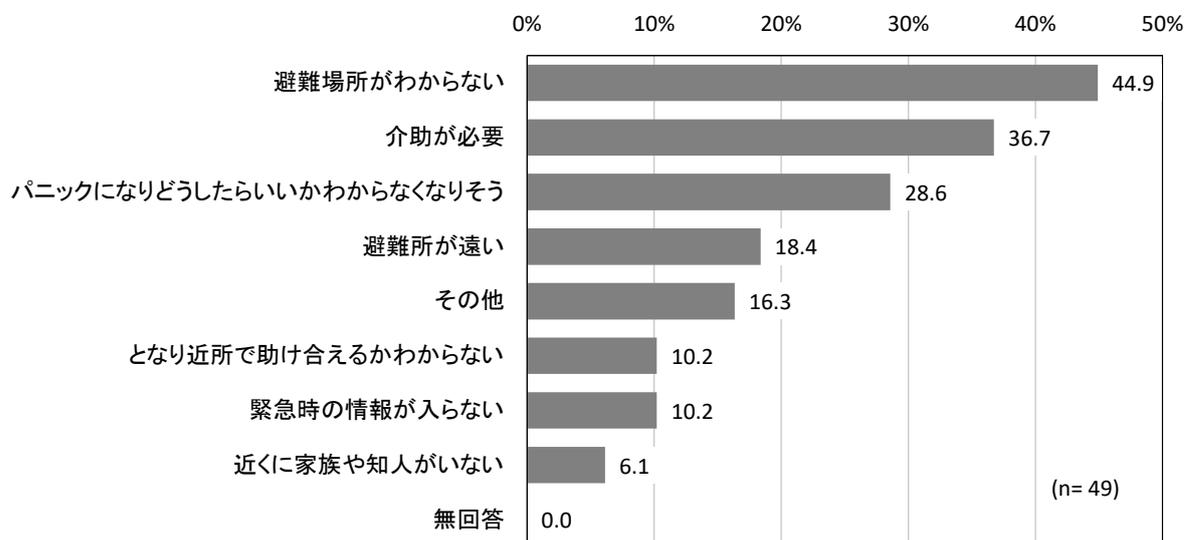
年齢別にみると、18～29歳及び40～49歳は「避難できると思う」が少なく、「わからない」が多くなっています。

居住地区別でみると、どの地区も「避難できると思う」が50%以上を占めていますが、落合・常盤地区は「避難できないと思う」が31.8%で他の地区よりも多くなっています。



(2) 災害などの緊急時に避難できないと思う理由【複数回答】

緊急時に避難できないと思う理由は、「避難場所がわからない」が44.9%で最も多く、次いで「介助が必要」(36.7%)、「パニックになりどうしたらいいかわからなくなりそう」(28.6%)が続いています。



<その他>

- ・ 身体が悪いので動けないから(2)
- ・ 避難訓練など、日頃の準備が村としてできていないから
- ・ 正確に何が起きたかわからないと思うから

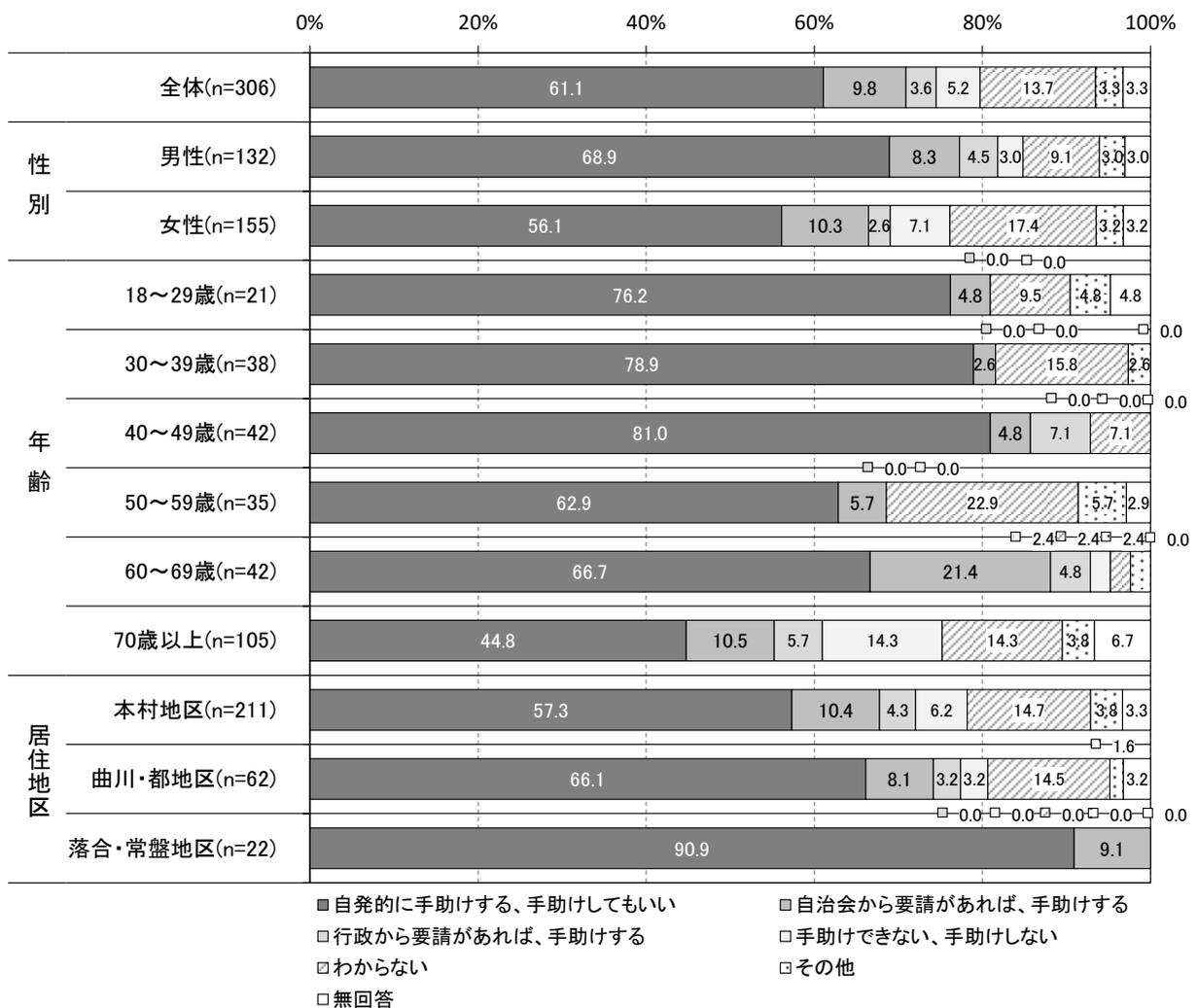
(3) 災害など緊急時の災害時要支援者への対応

全体でみると、「自発的に手助けする、手助けしてもいい」が61.1%で最も多く、「自治会から要請があれば、手助けする」(9.8%)、「行政から要請があれば、手助けする」(3.6%)を合わせると、70%以上は災害時に手助けする意向がある状況です。

男女別でみると、女性に比べて男性の方が「自発的に手助けする、手助けしてもいい」の割合が多くなっています。

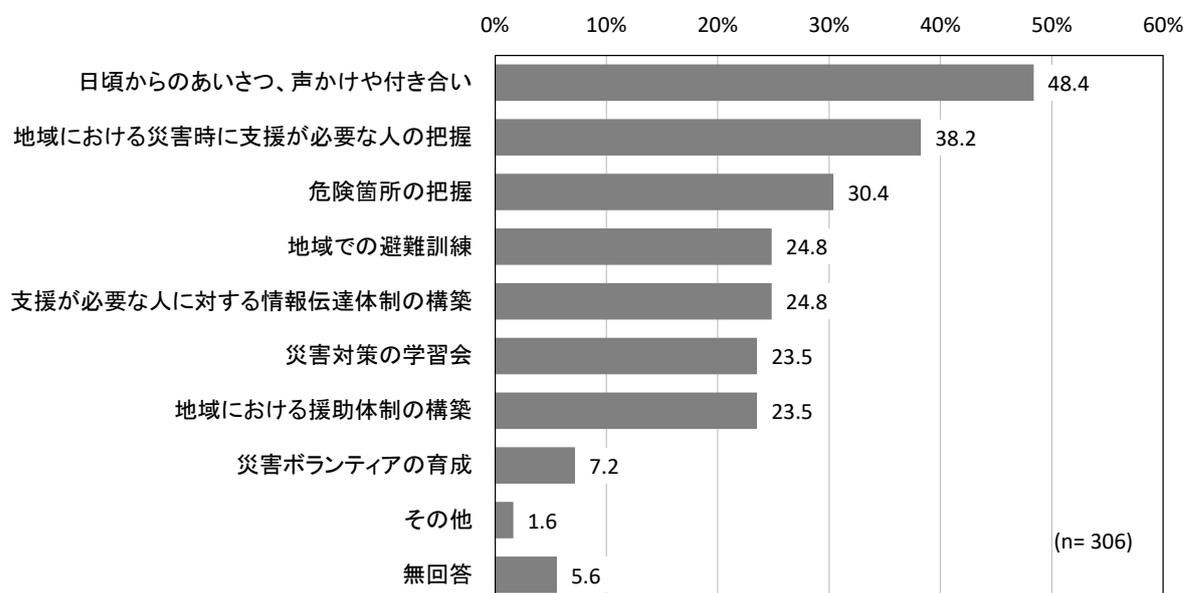
年齢別でみると、50歳未満は「自発的に手助けする、手助けしてもいい」が約80%を占めています。50歳以上のその割合は70%よりも少なくなり、70歳以上は44.8%となっています。

居住地区別でみると、落合・常盤地区は「自発的に手助けする、手助けしてもいい」が90.9%で非常に多くなっています。



(4) 地域における災害時の備えとして重要なこと【複数回答】

全体では、「日頃からのあいさつ、声かけや付き合い」が48.4%で最も多く、次いで「地域における災害時に支援が必要な人の把握」(38.2%)、「危険箇所の把握」(30.4%)と続いています。



<その他>

- ・ 防災グッズの斡旋
- ・ 村主体の地域を対象とした避難訓練(自治体、消防を含む)
- ・ 集合場所に人々が集まり、生活ができる用意があるかどうか

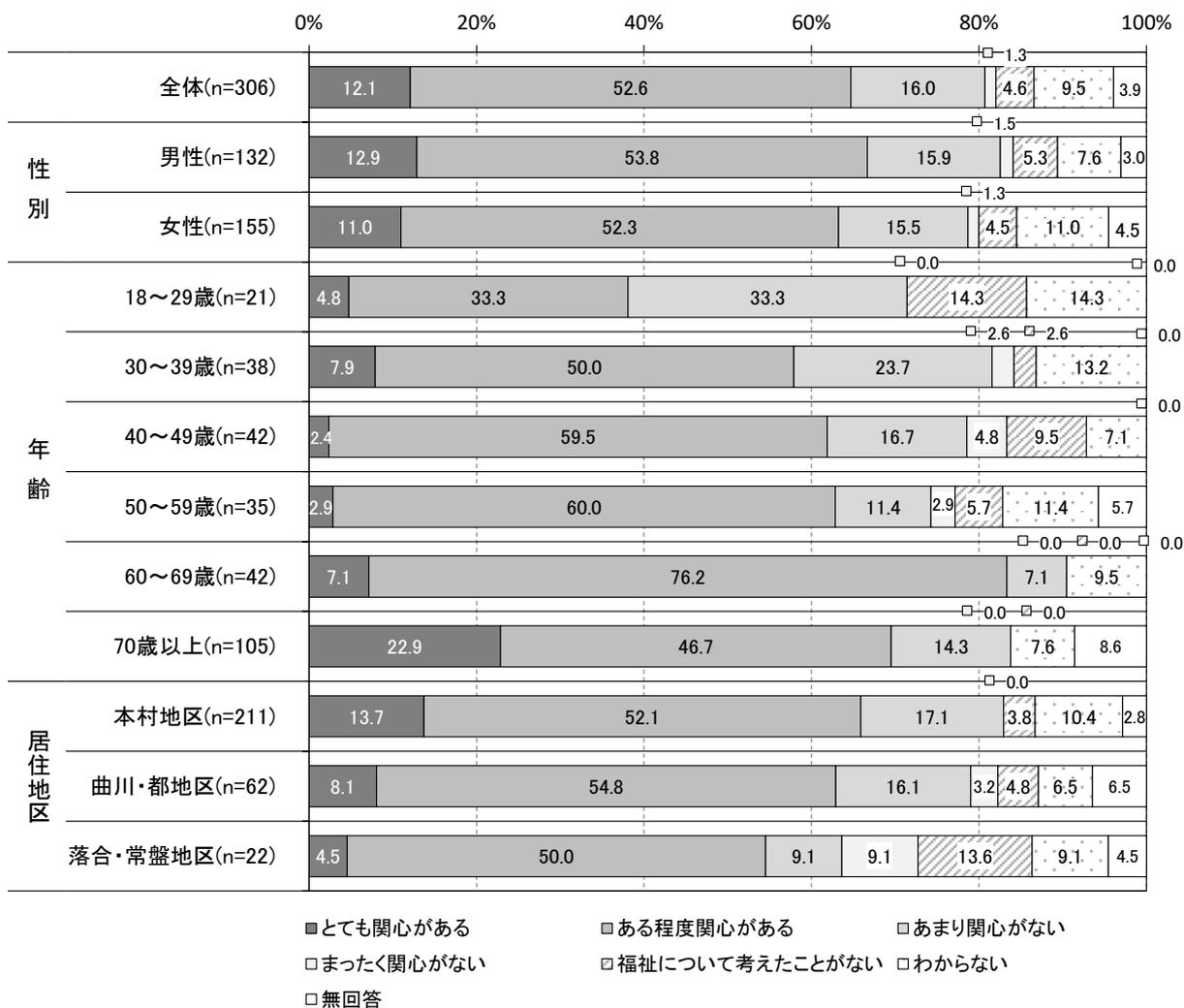
5. 地域福祉について

(1) 地域福祉への関心度

全体では、「とても関心がある」(12.1%)、「ある程度関心がある」(52.6%)の合計64.7%は関心があると回答しています。

男女別でも大きな差異はありませんが、「とても関心がある」「ある程度関心がある」の合計を年齢別で見ると、おおむね年齢が高くなるにつれて関心のある方が多くなっており、60～69歳は83.3%と多くなっています。

居住地区別で見ると、落合・常盤地区は「福祉について考えたことがない」と回答している方が13.6%で他の地区に比べて多くなっています。

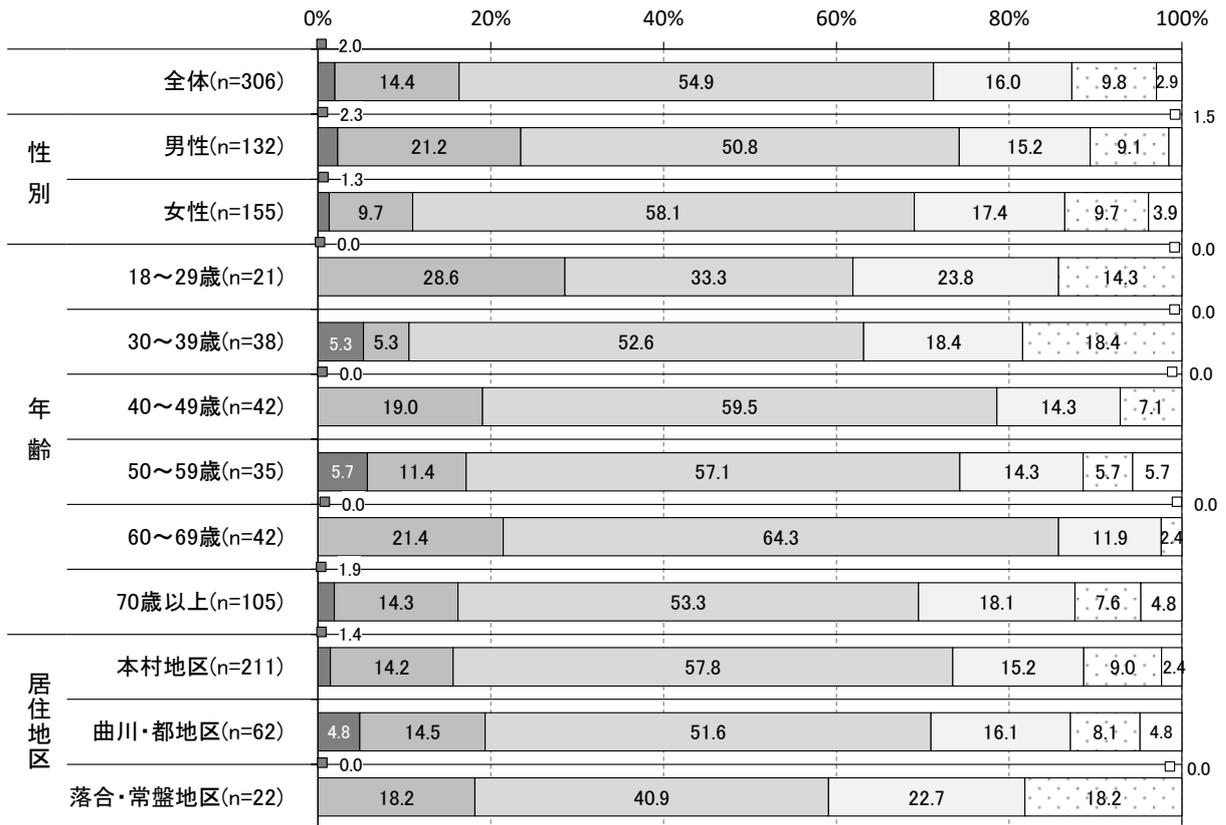


(2) 地域福祉に関する行政と地域住民の関係

全体では、「福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が54.9%で半数を占めており、次いで「家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである」(16.0%)と続いています。

男女別でも、「福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が最も多くなっていますが、男性は「行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」が女性と比べて多くなっています。

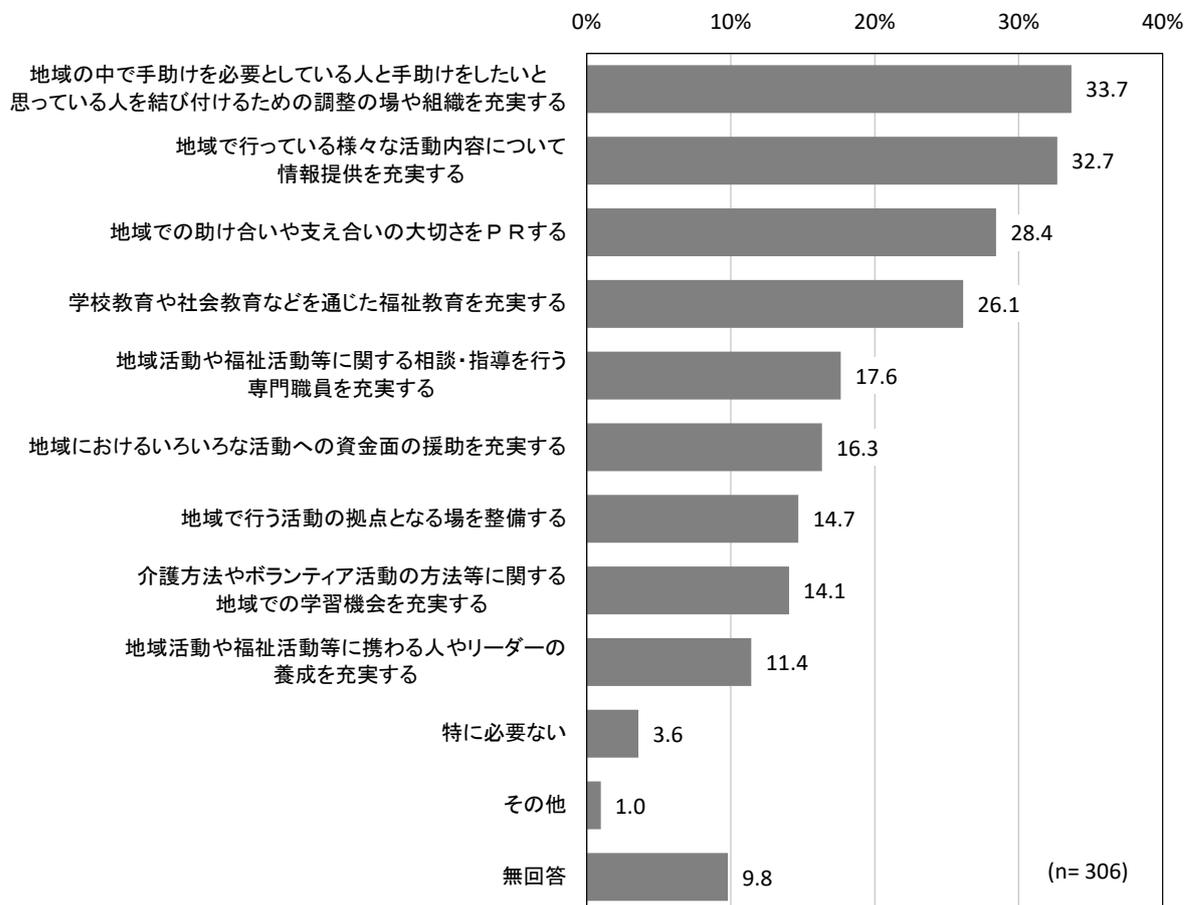
年齢別、居住地区別においても、「福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである」が多くなっていますが、18～29歳は「行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである」の割合も多くなっています。



- 地域福祉を実施する責任は行政にあるので、住民は特に協力することはない
- 行政の手に届かない福祉課題については、住民が協力していくべきである
- 福祉課題については、行政も住民も協力しあい、ともに取り組むべきである
- 家庭や地域で助け合い、できない場合に行政が援助すべきである
- その他
- わからない
- 無回答

(3) 地域での助け合いの輪を広げるために重要なこと【複数回答】

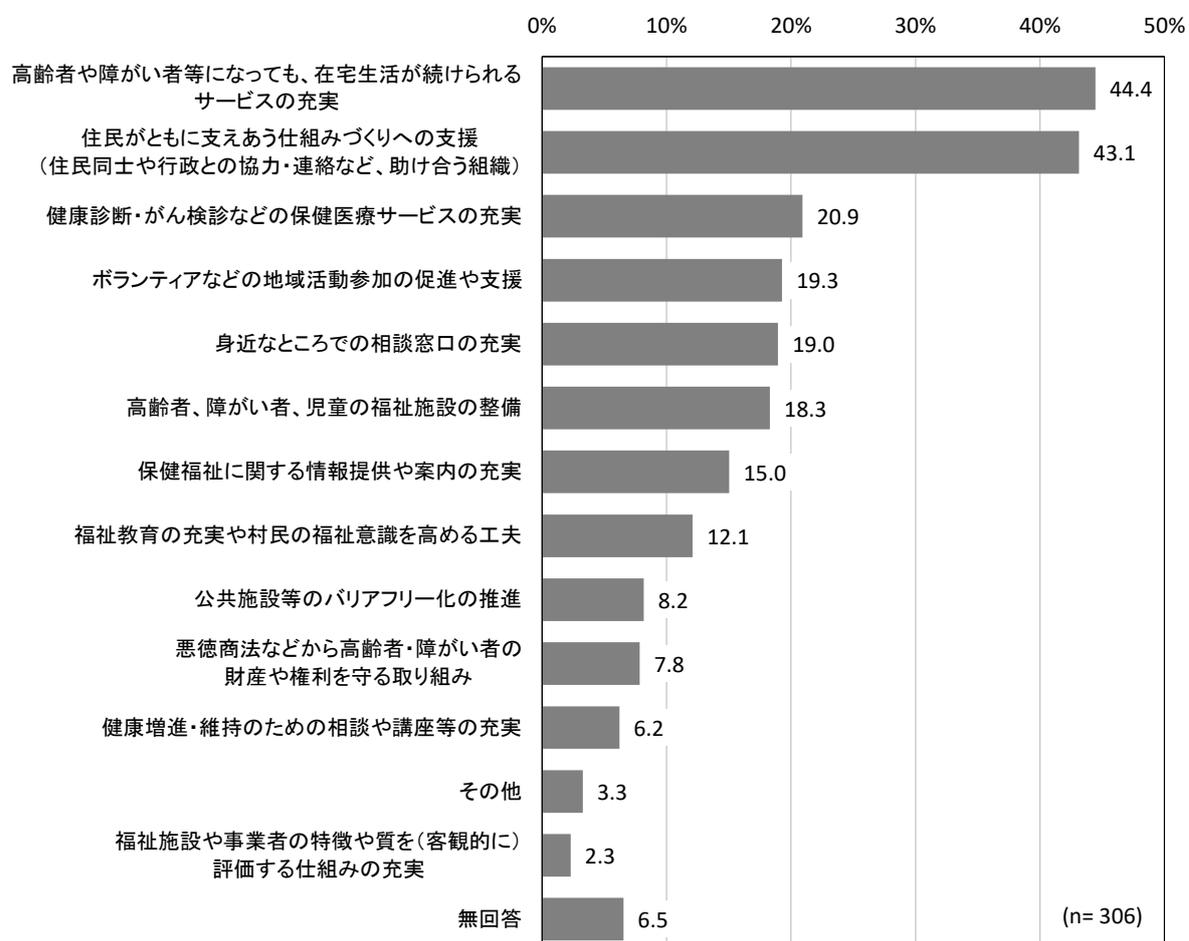
全体では、「地域の中で手助けを必要としている人と手助けをしたいと思っている人を結び付けるための調整の場や組織を充実する」(33.7%)で最も多く、次いで「地域で行っている様々な活動内容について情報提供を充実する」(32.7%)、「地域での助け合いや支え合いの大切さをPRする」(28.4%)と続いています。



(4) 地域福祉の充実のために村が積極的に取り組むべきこと【複数回答】

全体では、「高齢者や障がい者等になっても、在宅生活が続けられるサービスの充実」(44.4%)、「住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援(住民同士や行政との協力・連絡など、助け合う組織)」(43.1%)がほぼ同率で、他の項目を引き離しています。

次いで「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」(20.9%)、「ボランティアなどの地域活動参加の促進や支援」(19.3%)と続いています。



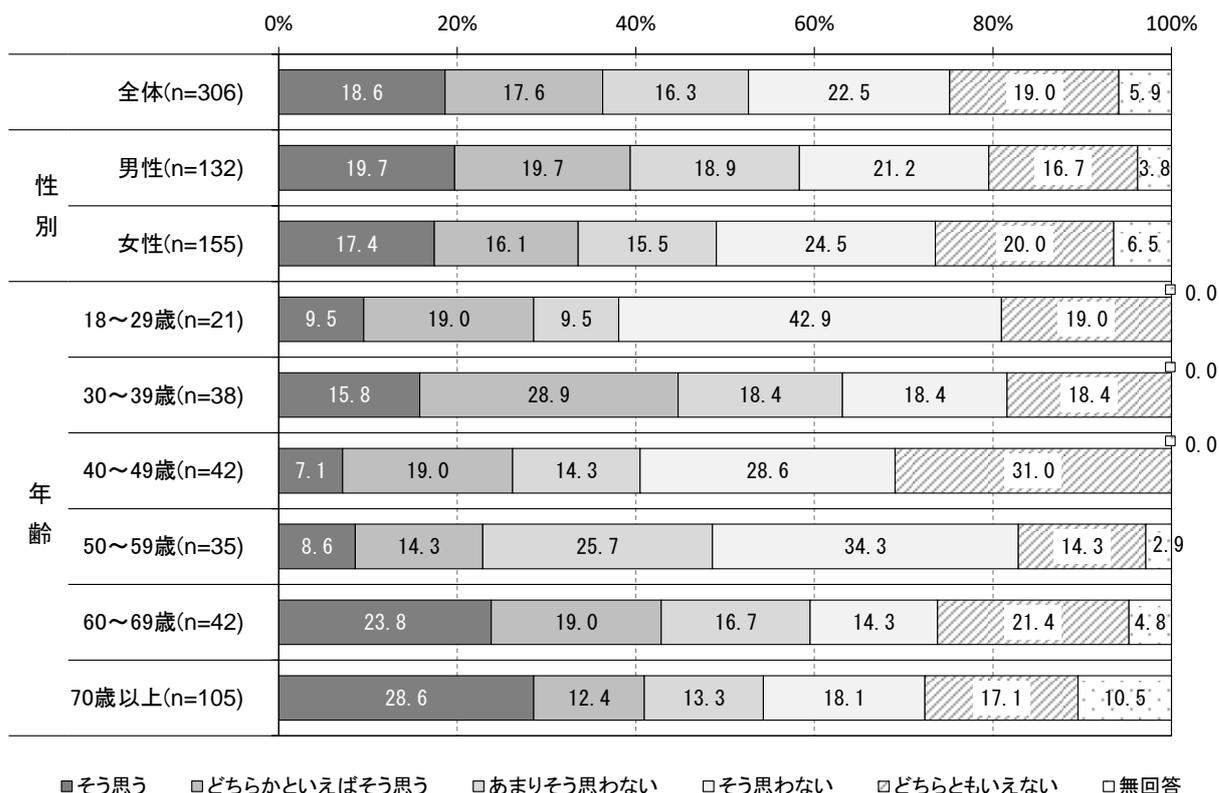
6. 自殺に関する意識について

(1) 自殺は自分自身にかかわる問題だと思うか

全体では、「そう思う」(18.6%)、「どちらかといえばそう思う」(17.6%)の合計36.2%の人は自殺のことを自分自身にかかわる問題だと考えています。

男女別に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、その割合は女性よりも男性の方が多くなっています。

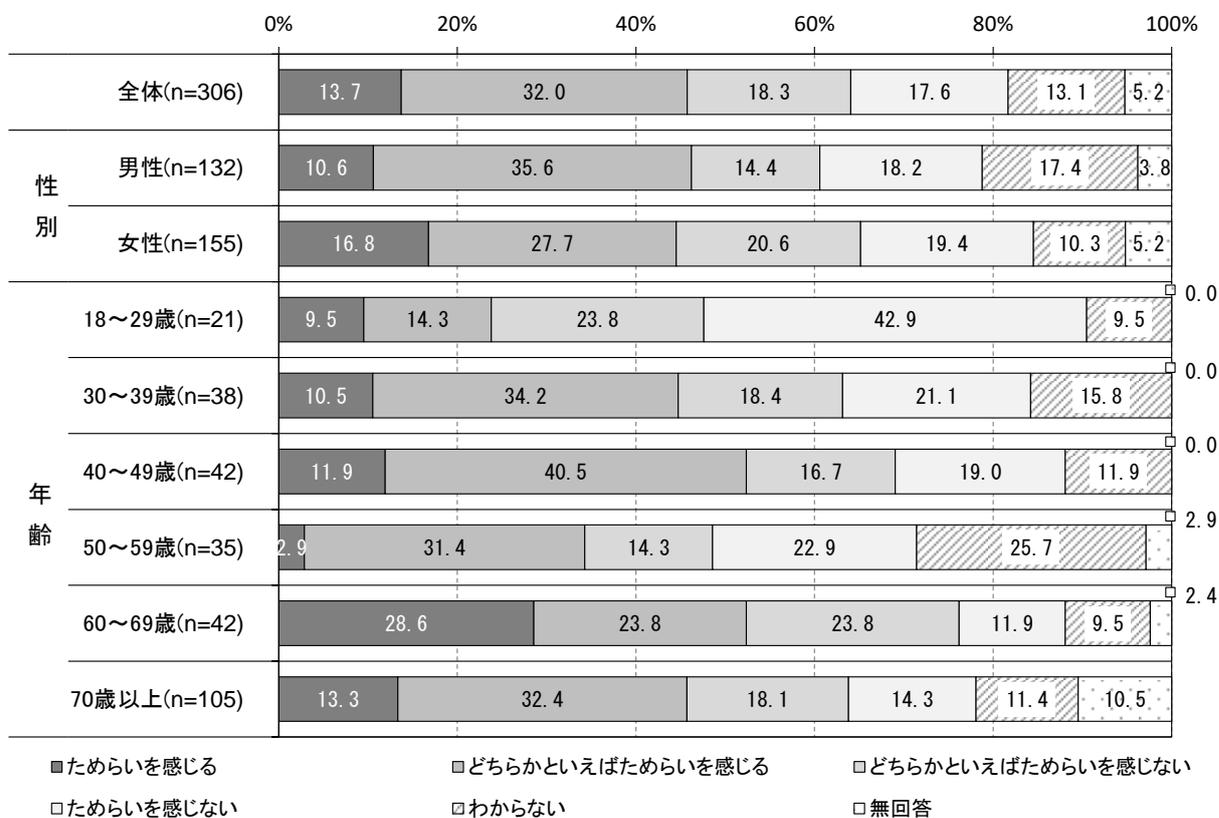
年齢別に「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、30~39歳が44.7%、60~69歳が42.8%、70歳以上が41.0%と多くなっています。



(2) 悩みなどを誰かに相談したり、助けを求めることにためらいを感じるか

全体では、「ためらいを感じる」(13.7%)、「どちらかといえばためらいを感じる」(32.0%)の合計45.7%が多少なりともためらいを感じている状況です。

男女別では、男性と比べて女性の方「ためらいを感じる」が多く、年齢別では60～69歳が「ためらいを感じる」が多くなっています。

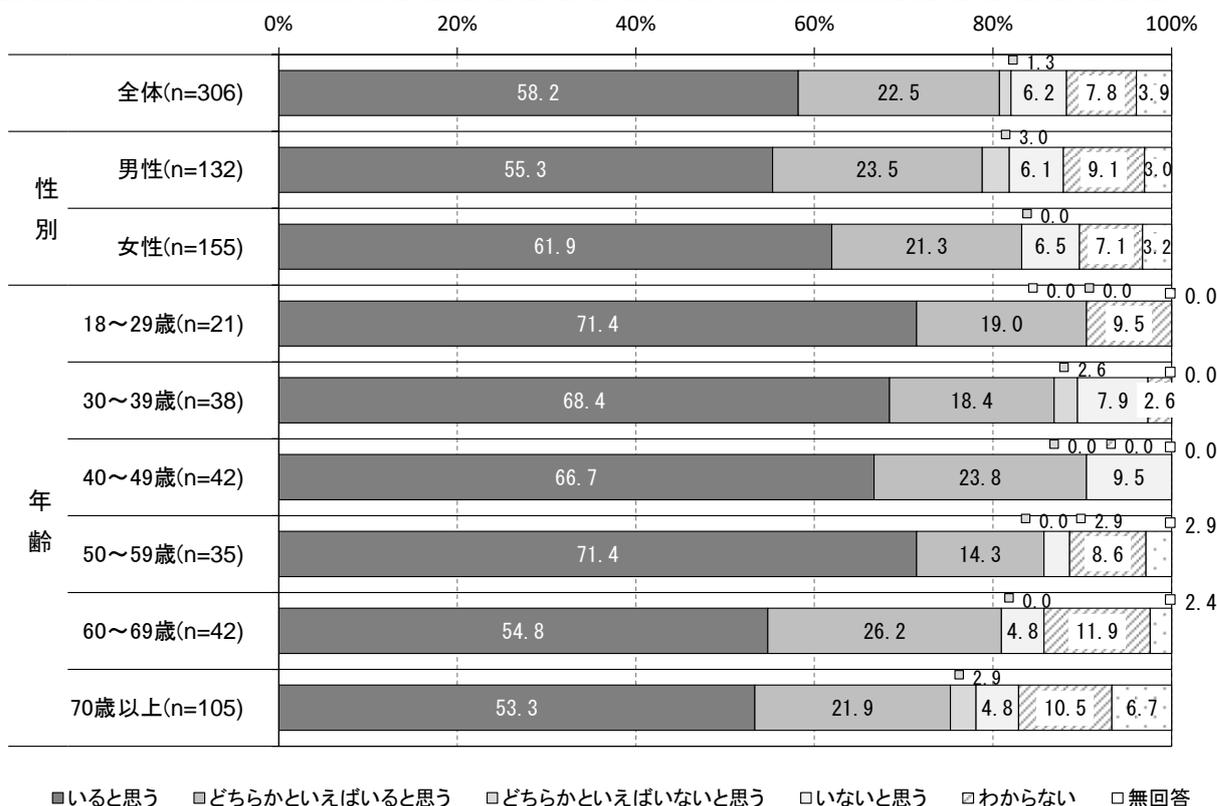


(3) 自分の不安・悩みを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると思うか

全体では、「いると思う」(58.2%)、「どちらかといえばいると思う」(22.5%)の合計80.7%が自分の不安・悩みを受け止め、耳を傾けてくれる人はいると回答しており、「どちらかといえばいないと思う」(1.3%)、「いないと思う」(6.2%)の合計は7.5%にとどまっています。

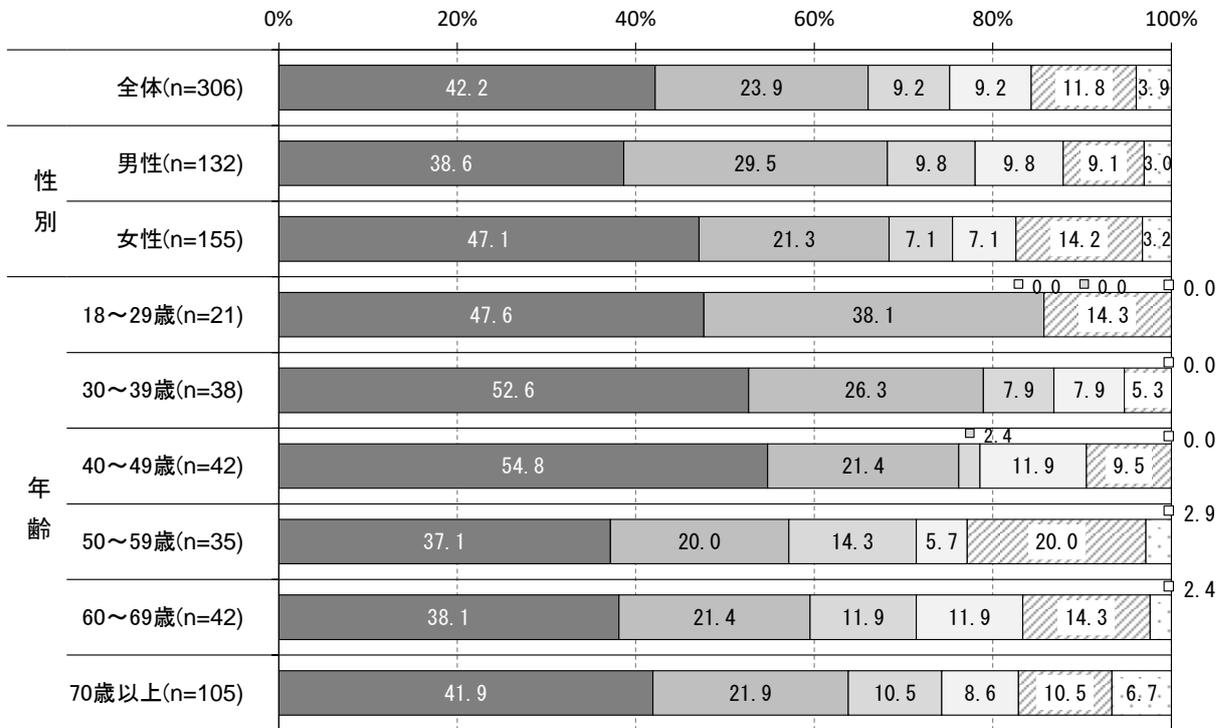
男女別でみると、男性よりも女性の方が自分の不安・悩みを受け止め、耳を傾けてくれる人がいると回答している人が多くなっています。

年齢別でみると、「いると思う」が60歳以上で少なくなっています。



(4) 必要なとき、物質的・金銭的な支援をしてくれる人はいると思うか

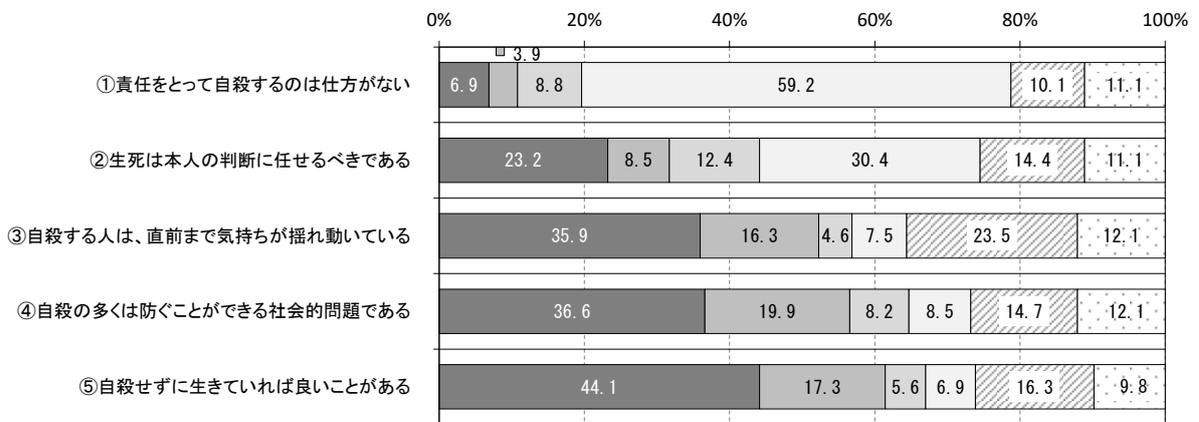
全体では、「いると思う」(42.2%)、「どちらかといえばいると思う」(23.9%)の合計66.1%が必要なとき、物質的・金銭的な支援をしてくれる人はいると回答しています。
 「いると思う」「どちらかといえばいると思う」の合計は、男女別にみても大きな差異はありませんが、女性は「わからない」が男性よりも多くなっています。
 年齢別でみると、「いると思う」が50歳以上で少なくなっています。



■いると思う □どちらかといえばいると思う □どちらかといえばいないと思う □いないと思う □わからない □無回答

(5) 自殺についての考え方

①責任をとって自殺するのは仕方がないは「そう思わない」が59.2%と多く、④自殺の多くは防ぐことができる社会的問題であるは「そう思う」と



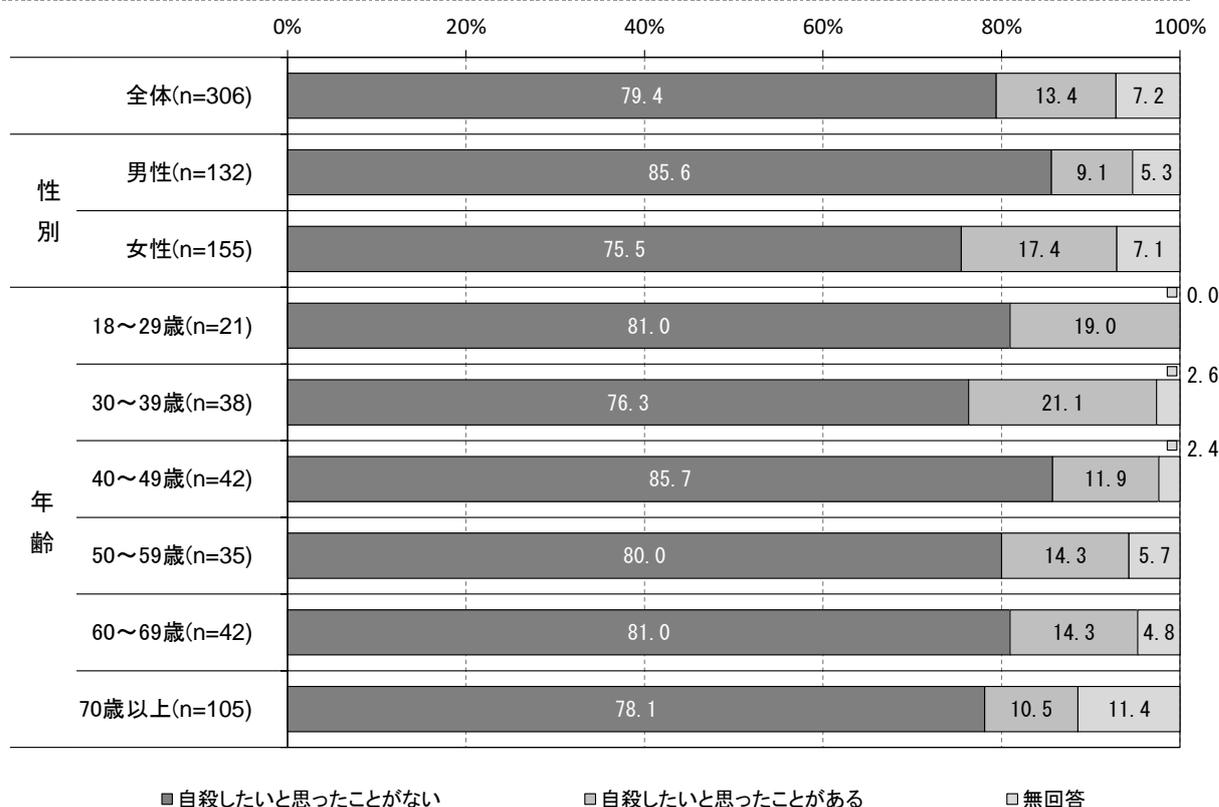
■そう思う □ややそう思う □あまりそう思わない □そう思わない □わからない □無回答 (n=306)

(6) これまでに本気で自殺したいと考えたことがあるか

全体では「自殺したいと思ったことがない」が79.4%を占めていますが、「自殺したいと思ったことがある」も13.4%と少ないながらも存在している状況です。

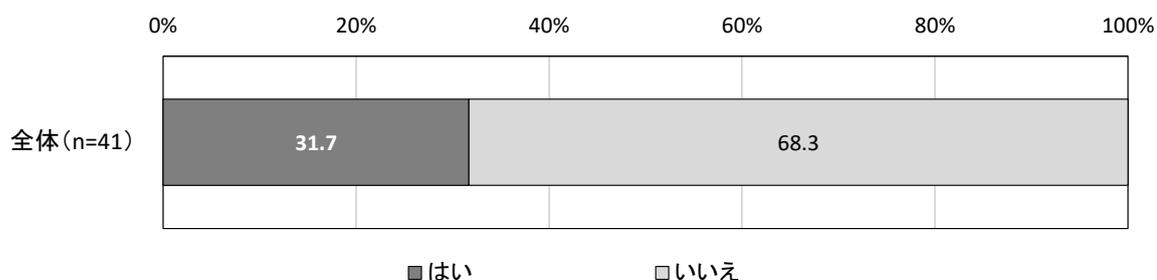
男女別でみると「自殺したいと思ったことがある」は男性よりも女性が多く17.4%となっています。

年齢別に「自殺したいと思ったことがある」をみると、30～39歳が21.1%、18～29歳が19.0%と他の年齢と比べて多くなっています。



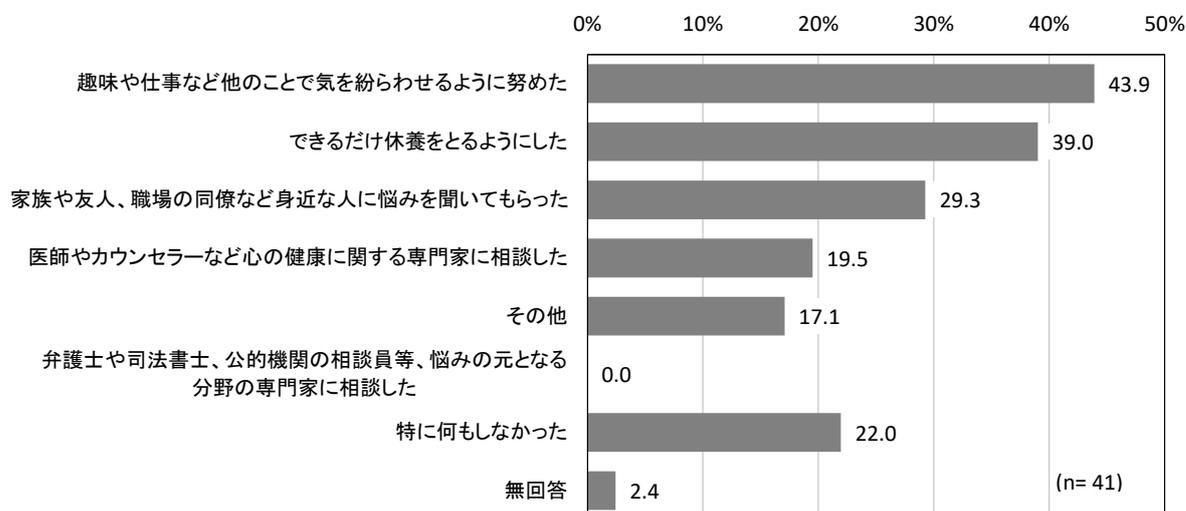
(7) 最近1年以内に自決したいと思ったことがあるか

これまでに自決したいと考えたことがある方の中で、最近1年以内に自決したいと思ったことがある方は、「はい」が31.7%となっており、全体からみると約4%の人が最近1年以内に自決したいと思っている状況です。



(8) 自殺したいと考えたとき、どのようにして乗り越えたか【複数回答】

これまでに自殺したいと考えたことがある方の中で、自殺をしたいと考えたときの乗り越え方は、「趣味や仕事など他のことで気を紛らわせるように努めた」が43.9%で最も多く、次いで「できるだけ休養をとるようにした」(39.0%)、「家族や友人、職場の同僚など身近な人に悩みを聞いてもらった」(29.3%)と続いています。

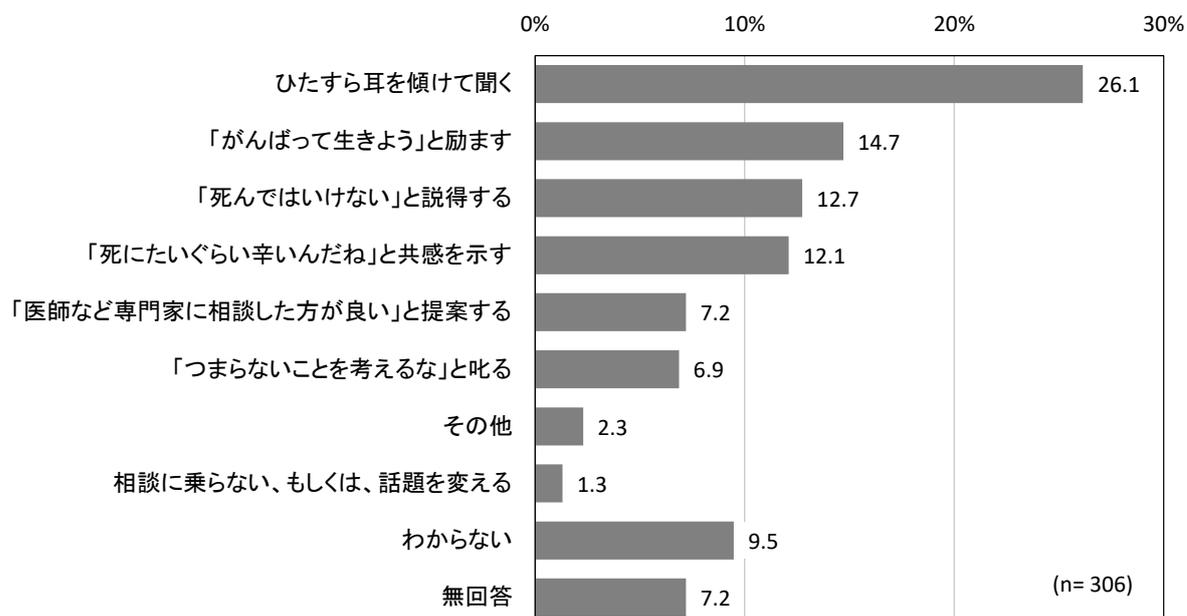


<その他>

- ・ いろんな本、特にキリスト教の本を読んだ
- ・ カウンセリングや悩みに関する本、書籍を読むこと
- ・ 耳をふさぐ
- ・ 自分で考え判断処理している
- ・ 自分ととことん向き合った

(9) 身近な人に「死にたい」と打ち明けられたときの対応の仕方

「ひたすら耳を傾けて聞く」が26.1%で最も多く、次いで「「がんばって生きよう」と励ます」(14.7%)、「「死んではいけない」と説得する」(12.7%)と続いています。



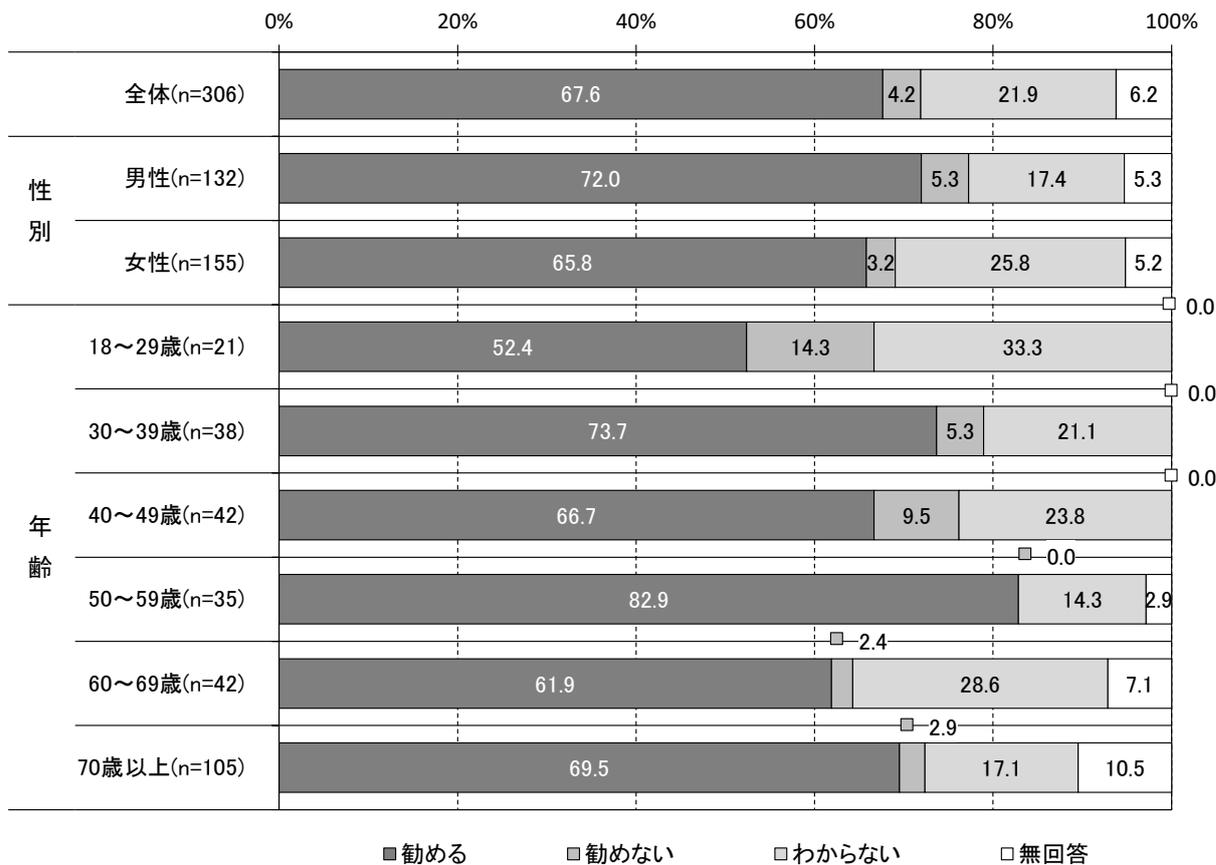
7. うつ病について

(1) 身近な人の「うつ病のサイン」に気付いたとき、専門相談窓口を勧めるか

全体では、専門相談窓口を「勧める」が67.6%で最も多く、次いで「わからない」(21.9%)、「勧めない」(4.2%)となっています。

男女別で見ると、男性の方が女性よりも「勧める」と回答している方が多く、女性は男性よりも「わからない」と回答している方がやや多くなっています。

年齢別で見ると、いずれの年齢においても「勧める」が50%を超えています。その割合は18～29歳が52.4%、50～59歳が82.9%で大きな差異があります。

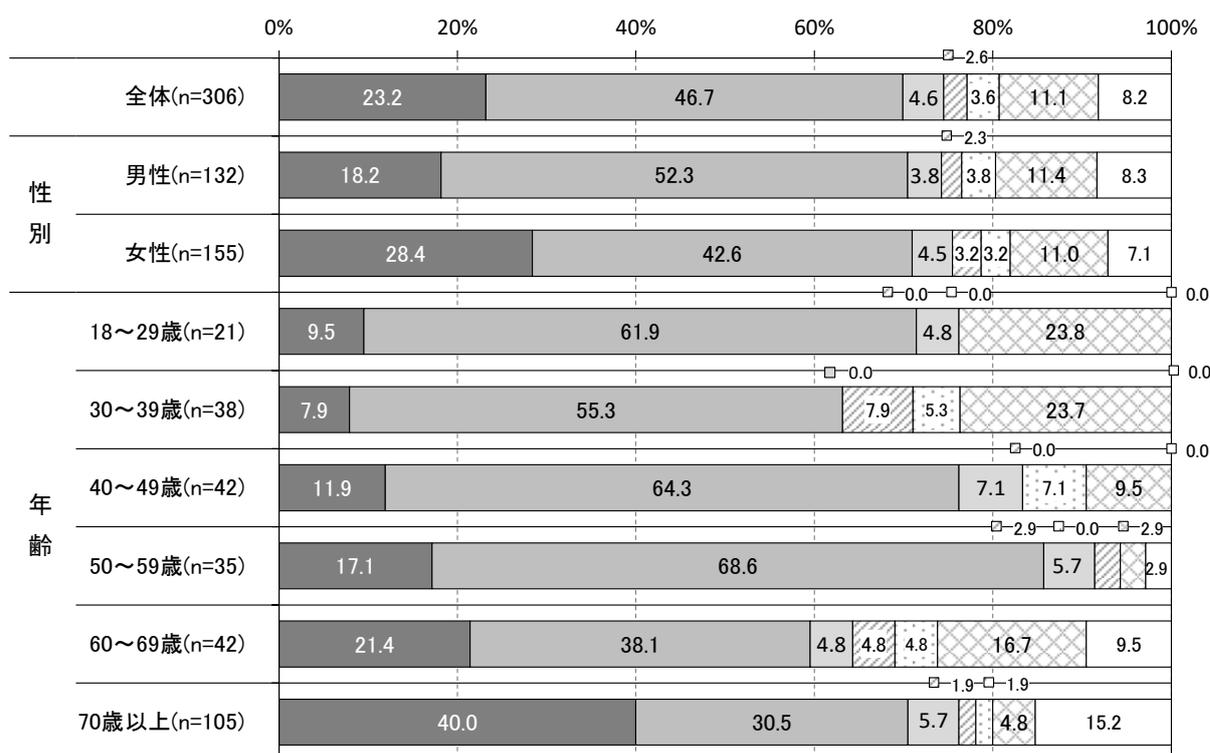


(2) 自分自身の「うつ病のサイン」に気付いたとき、利用したい専門相談窓口

全体では、「精神科や心療内科等の医療機関」が46.7%で最も多く、次いで「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」（23.2%）となっています。

男女別でみると、女性よりも男性の方が「精神科や心療内科等の医療機関」が多くなっています。

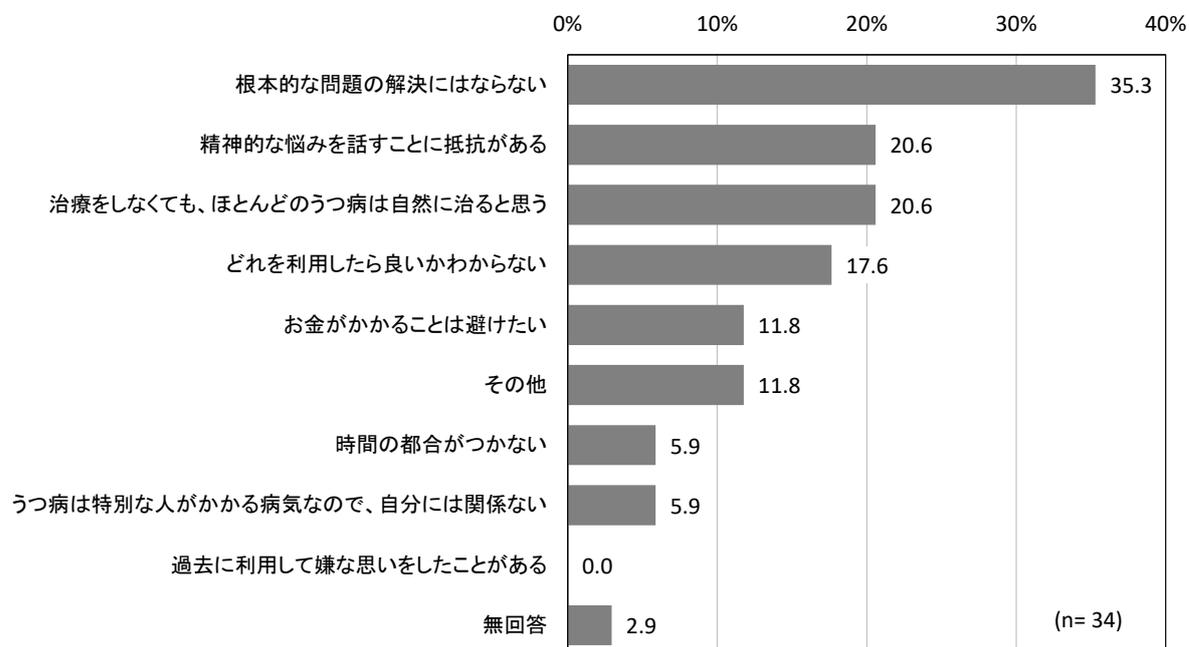
年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて「かかりつけの医療機関（精神科や心療内科等を除く）」の割合が多くなっており、70歳以上では40.0%となっています。一方、18～39歳は「何も利用しない」が約20%と他の年齢よりも多くなっています。



- かかりつけの医療機関(精神科や心療内科等を除く)
- 精神科や心療内科等の医療機関
- 保健所等公的機関の相談窓口
- いのちの電話等民間機関の相談窓口
- その他
- 何も利用しない
- 無回答

(3) 自分自身の「うつ病のサイン」に気付いたときに何も利用しない理由【複数回答】

全体では、「根本的な問題の解決にはならない」が35.3%で最も多く、次いで「精神的な悩みを話すことに抵抗がある」、「治療をしなくても、ほとんどのうつ病は自然に治ると思う」（ともに20.6%）、「どれを利用したら良いかわからない」（17.6%）と続いています。

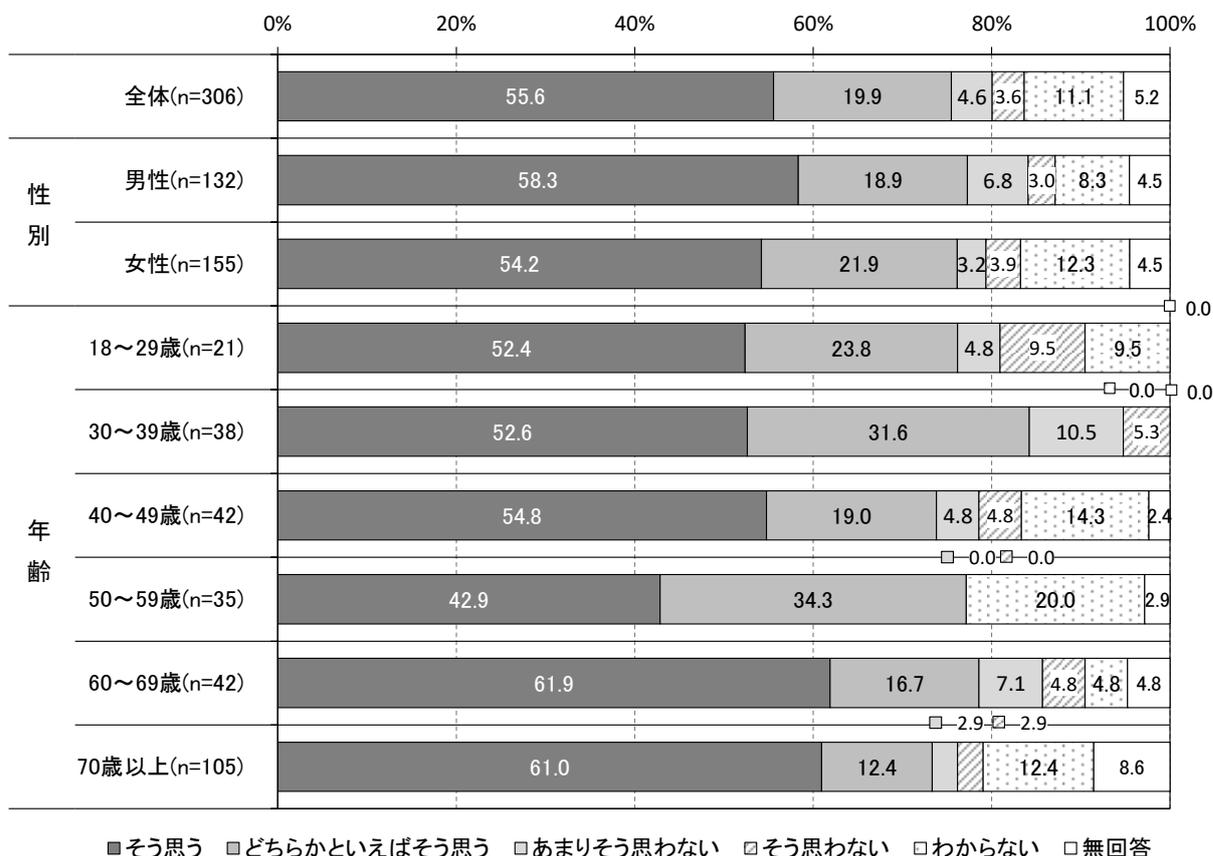


8. 今後の自殺対策について

(1) 児童・生徒が、自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと思うか

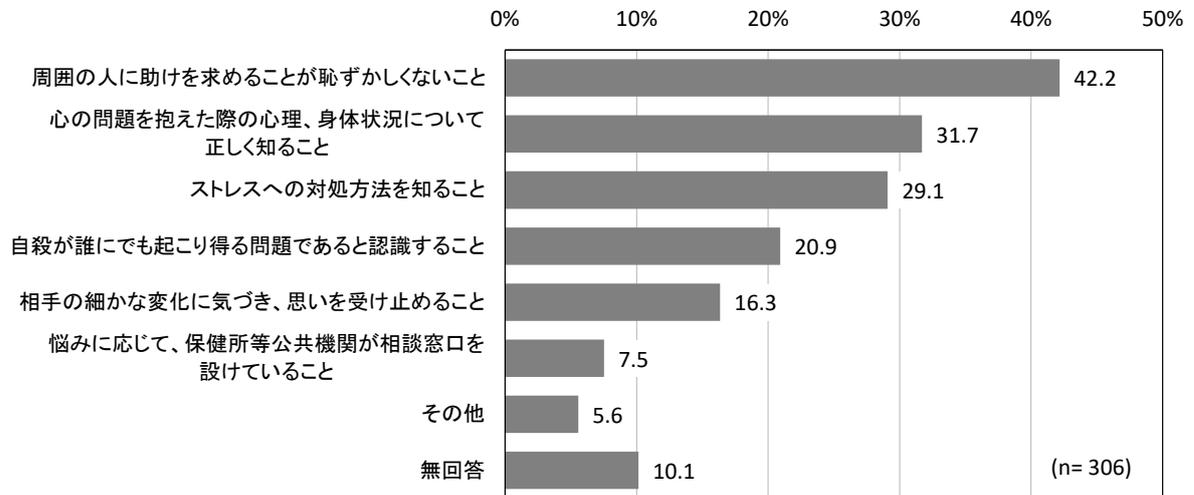
全体では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は75.5%となっており、自殺予防について学ぶ機会があった方が良いと思う方が多くなっています。

男女別でみても大きな差異はみられず、年齢別でみても「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は70%以上を占めています。



(2) 自殺予防につなげるために、児童・生徒の段階で学ぶべきこと【複数回答】

全体は、「周囲の人に助けを求めることが恥ずかしくないこと」が42.2%で最も多く、次いで「心の問題を抱えた際の心理、身体状況について正しく知ること」(31.7%)、「ストレスへの対処方法を知ること」(29.1%)と続いています。



(3) 今後求められる自殺対策【複数回答】

「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」が31.4%で最も多く、次いで「地域やコミュニティを通じた見守り・支え合い」(30.7%)、「職場におけるメンタルヘルス対策の推進」(26.1%)と続いています。

